



第 8 1 回 国 民 ス ポ ー ツ 大 会 ・
第 2 6 回 全 国 障 害 者 ス ポ ー ツ 大 会
宮 崎 県 準 備 委 員 会



第 2 回 全 国 障 害 者 ス ポ ー ツ 大 会 専 門 委 員 会

期 日 令和 2 年 7 月 2 9 日 (水)
時 間 午後 1 時 3 0 分 から 午後 3 時 まで
場 所 宮崎観光ホテル西館 8 階「ブリリアントホール」

次 第

1 開 会

2 挨拶

- 県障がい福祉課 課長 重盛 俊郎

3 委員紹介

4 委員長・副委員長の紹介

5 報告・説明事項

- (1) 宮崎県準備委員会準備経過について
- (2) 宮崎県準備委員会決定事項について
- (3) 第 2 6 回 全 国 障 害 者 ス ポ ー ツ 大 会 に お け る 競 技 運 営 主 管 団 体 に つ い て
- (4) 第 2 6 回 全 国 障 害 者 ス ポ ー ツ 大 会 に お け る 会 場 地 選 定 の 進 め 方 に つ い て

6 協議事項

- (1) 第 2 6 回 全 国 障 害 者 ス ポ ー ツ 大 会 に 向 け た 取 組 に つ い て (課 題 の 整 理)
 - ① 選手・チームの育成・強化について
 - ② 競技役員の養成について
 - ③ ボランティアの養成について
 - ④ その他

7 その他

8 閉 会

第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会
宮崎県準備委員会
第2回全国障害者スポーツ大会専門委員会

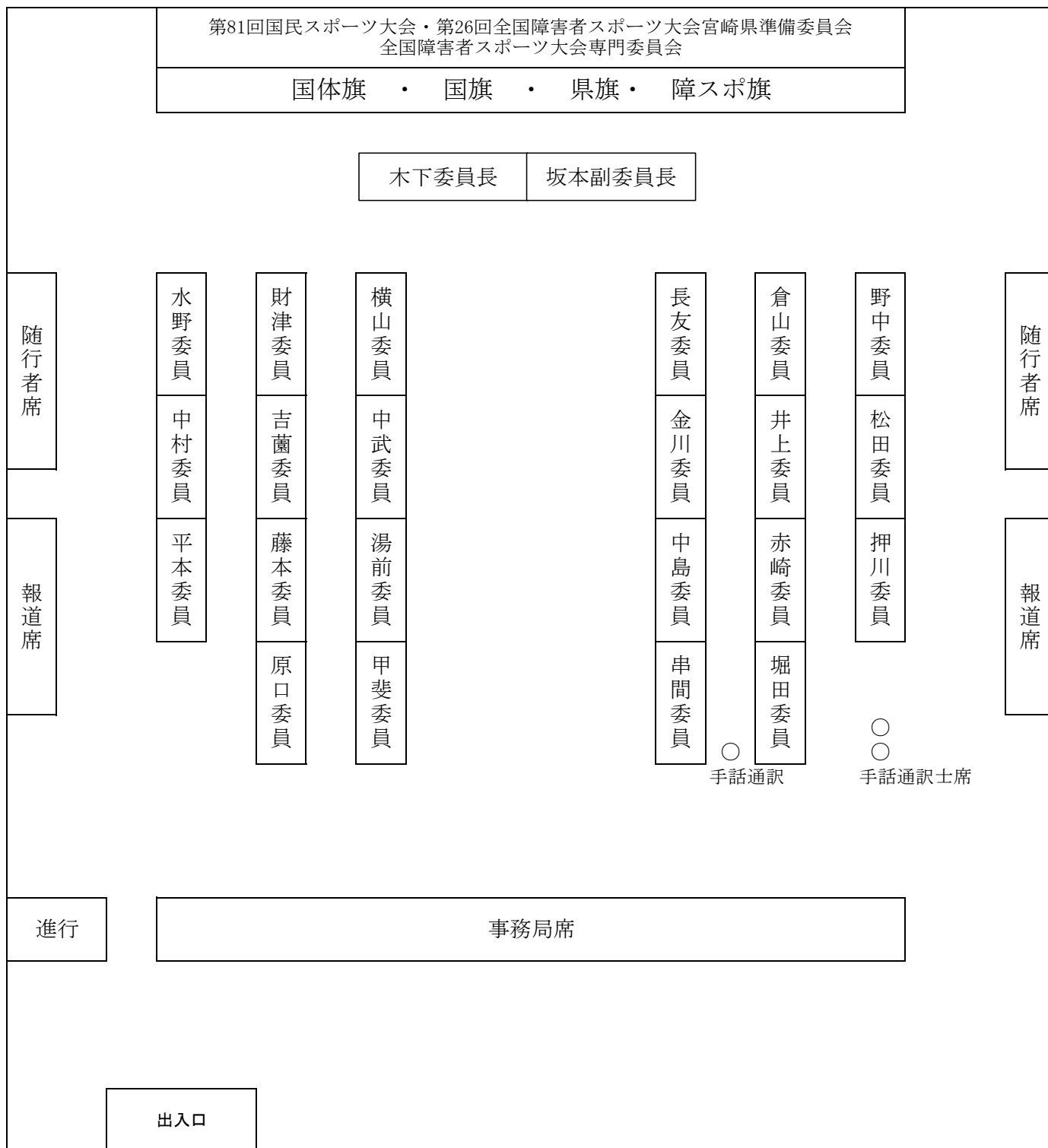
【委員】

(順不同・敬称略)

| 区分 | 所属 | 役職 | 氏名 |
|-----------------|----------------------|-----------------|-----------|
| スポーツ | 宮崎県障がい者スポーツ協会 | チャレンジスポーツディレクター | 木 下 理 |
| | 公益財団法人宮崎県スポーツ協会 | 事務局次長 | 横 山 美 和 |
| | 宮崎県障がい者スポーツ指導者協議会 | 会長 | 中 武 久 美 子 |
| | 一般財団法人宮崎陸上競技協会 | 副理事長 | 湯 前 英 則 |
| | 一般財団法人宮崎県水泳連盟 | 理事 | 財 津 優 |
| | 宮崎県アーチェリー協会 | 理事長 | 眞 方 佑 輔 |
| | 宮崎県卓球協会 | 理事長 | 吉 藺 孝 雄 |
| | 宮崎県障害者卓球連盟 | 理事 | 山 口 利 信 |
| | 宮崎県障害者フライングディスク協会 | 事務局長 | 藤 本 啓 介 |
| | 宮崎県ボウリング連盟 | 理事長 | 原 口 宏 史 |
| | 宮崎県ボッチャ協会 | 事務局長 | 水 野 啓 三 |
| | 一般社団法人宮崎県バスケットボール協会 | 監事 | 中 村 彰 成 |
| | 宮崎県車椅子バスケットボール連盟 | 会長 | 甲 斐 義 喜 |
| | 宮崎県ソフトボール協会 | 理事長 | 平 本 修 |
| | 宮崎県バレーボール協会 | 副理事長 | 長 友 久 夫 |
| 一般社団法人宮崎県サッカー協会 | 常務理事兼 事業・広報委員会委員長 | 金 川 敏 洋 | |
| 学校関係 | 宮崎県特別支援学校長会 | 副会長 | 中 島 浩 美 |
| | 公立大学法人宮崎県立看護大学 | 教授 | 串 間 敦 郎 |
| 医療・福祉 | 社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 | 事務局次長兼地域福祉部長 | 坂 本 雅 樹 |
| | 一般社団法人宮崎県身体障害者団体連合会 | 副会長 | 倉 山 幸 一 |
| | 一般社団法人宮崎県手をつなぐ育成会 | 副会長 | 井 上 あ け み |
| | 宮崎県精神保健福祉連絡協議会 | 事務局長 | 赤 崎 圭 一 郎 |
| | 公益財団法人宮崎県視覚障害者福祉協会 | 事務局長 | 野 中 求 |
| | 社会福祉法人宮崎県聴覚障害者協会 | 理事 | 堀 田 享 志 |
| | 宮崎県知的障害者施設協議会 | 会長 | 三 原 基 秀 |
| 市町村 | 会場地市町村 | ※会場地決定後、就任予定 | |
| 県 | 教育庁特別支援教育課 | 課長 | 松 田 律 子 |
| | 教育庁スポーツ振興課 | 課長 | 押 川 幸 廣 |

第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会
宮崎県準備委員会
第2回全国障害者スポーツ大会専門委員会

【座席図】





第 8 1 回 国 民 ス ポ ー ツ 大 会 ・
第 2 6 回 全 国 障 害 者 ス ポ ー ツ 大 会
宮 崎 県 準 備 委 員 会



第 2 回 全 国 障 害 者 ス ポ ー ツ 大 会 専 門 委 員 会

報 告 ・ 説 明 資 料

令 和 2 年 7 月 2 9 日 (水)

宮 崎 観 光 ホ テ ル 西 館 8 階 ブ リ リ ア ン ト ホ ー ル

1 報告

(1) 宮崎県準備委員会準備経過 P 1

(2) 宮崎県準備委員会決定事項

【第5回常任委員会】

○ 第81回国民スポーツ大会準備総合計画改正 P 3

○ 第81回国民スポーツ大会会場地市町村第5次選定 P 6

○ 第81回国民スポーツ大会会場地市町村第6次選定 P 7

○ 第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会
県民運動基本方針 P 8

○ 第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会
愛称・スローガン最優秀作品及び優秀作品 P 9

【第6回常任委員会】

○ 第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会
開催基本構想（素案） P 10
(別冊)

○ 第81回国民スポーツ大会正式競技会場地市町村第7次選定 P 11

○ 第81回国民スポーツ大会公開競技会場地市町村第1次選定 P 12

○ 第81回国民スポーツ大会総合開・閉会式会場地選定 P 13

○ 第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会
宮崎県準備委員会専門委員会規定改正 P 17

○ 第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会
会場地市町村選定基本方針及び会場地市町村選定基準改正 P 21

○ 第26回全国障害者スポーツ大会
県及び会場地市町村の業務分担・経費負担基本方針 P 25

(3) 第26回全国障害者スポーツ大会における
競技運営主管団体について P 28

2 説明

(1) 第26回全国障害者スポーツ大会における会場地選定の
進め方について P 29

第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会準備経過

| 年 月 日 | 内 容 |
|-------------|--|
| 平成27年 1月14日 | 公益財団法人宮崎県体育協会（以下「県体協」という。）臨時理事会及び評議員会において、「平成38年第81回国民体育大会の宮崎県開催招致」を決議 |
| 2月12日 | 県体協が県、県議会及び県教育委員会に「平成38年第81回国民体育大会の宮崎県開催招致要望書」を提出 |
| 2月25日 | 知事が第4回県議会定例会において、「平成38年第81回国民体育大会及び第26回全国障害者スポーツ大会の宮崎県開催招致」を表明 |
| 3月13日 | 第4回県議会定例会において、「平成38年第81回国民体育大会及び第26回全国障害者スポーツ大会の宮崎県開催招致に関する決議」を全会一致で議決 |
| 3月16日 | 定例教育委員会において、「平成38年第81回国民体育大会及び第26回全国障害者スポーツ大会の宮崎県開催招致に関する決議」を議決 |
| 4月17日 | 知事が文部科学省に「平成38年第81回国民体育大会開催要望書」と「平成38年第26回全国障害者スポーツ大会開催要望書」を提出 知事が公益財団法人日本体育協会（以下「日体協」という。）に「平成38年第81回国民体育大会開催要望書」を、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会に「平成38年第26回全国障害者スポーツ大会開催要望書」を提出 |
| 6月11日 | 日体協第1回国体委員会において、「平成38年第81回国民体育大会開催申請書提出順序了解県」として承認 |
| 7月22日 | 日体協第3回理事会において、「平成38年第81回国民体育大会開催申請書提出県」として了解（宮崎県開催が内々定） |
| 平成28年 4月 1日 | 宮崎県教育庁スポーツ振興課に国体準備担当を設置 |
| 平成29年 4月 1日 | 宮崎県教育庁に国体・高校総体準備室を設置 |
| 10月30日 | 第81回国民体育大会宮崎県準備委員会設立総会・第1回総会及び第1回常任委員会を開催 |
| 11月14日 | 第1回総務企画専門委員会及び第1回施設整備専門委員会を開催 |
| 11月17日 | 第1回競技運営専門委員会を開催 |
| 12月14日 | 第1回市町村担当者会議及び第1回競技団体担当者会議を開催 |
| 平成30年 4月 1日 | 宮崎県総合政策部に国体準備課を設置 |
| 5月22日 | 第2回総務企画専門委員会を開催 |
| 7月 9日 | 第2回常任委員会及び第2回総会を開催 |
| 7月24日 | 第1回広報・県民運動専門委員会を開催 |

| 年 月 日 | 内 容 |
|-------------|---|
| 7月31日 | 第2回市町村担当者会議及び第2回競技団体担当者会議を開催 |
| 10月29日 | 第3回総務企画専門委員会を開催 |
| 12月19日 | 第2回競技運営専門委員会及び第2回広報・県民運動専門委員会を開催 |
| 平成31年 1月31日 | 第3回常任委員会を開催 |
| 2月 6日 | 第4回総務企画専門委員会を開催 |
| 3月15日 | 第3回市町村担当者会議及び第3回競技団体担当者会議を開催 |
| 4月 1日 | 国体準備課を国民スポーツ大会準備課に改称 |
| 令和元年 5月30日 | 第5回総務企画専門委員会を開催 |
| 7月 1日 | 第4回常任委員会及び第3回総会を開催 「第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会宮崎県準備委員会」に改称 |
| 7月 9日 | 第3回広報・県民運動専門委員会を開催 |
| 8月 2日 | 第1回開催基本構想策定検討部会を開催 |
| 8月28日 | 第4回市町村担当者会議及び第4回競技団体担当者会議を開催 |
| 11月12日 | 第6回総務企画専門委員会を開催 |
| 12月16日 | 第1回全国障害者スポーツ大会専門委員会を開催 |
| 12月17日 | 第2回開催基本構想策定検討部会を開催 |
| 12月20日 | 第5回市町村担当者会議及び第5回競技団体担当者会議を開催（合同開催） |
| 令和2年 1月16日 | 第1回愛称・スローガン、マスコットキャラクター部会を開催 |
| 1月31日 | 第7回総務企画専門委員会を開催 |
| 2月 5日 | 第4回広報・県民運動専門委員会を開催 |
| 2月 7日 | 第3回開催基本構想策定検討部会を開催 |
| 2月17日 | 第5回常任委員会を開催 |
| 3月18日 | 第6回市町村担当者会議及び第6回競技団体担当者会議 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止（資料配布のみ） |
| 6月25日 | 第8回総務企画専門委員会を開催 |
| 6月25日 | 第2回愛称・スローガン、マスコットキャラクター部会を開催 |
| 7月 6日 | 第6回常任委員会を開催 |

第5回常任委員会
決定事項

第 8 1 回国民スポーツ大会開催準備総合計画改正

第 8 1 回国民スポーツ大会開催準備総合計画を次のとおり改正する。

1 改正の理由

第 8 1 回国民スポーツ大会及び第 2 6 回全国障害者スポーツ大会の一体的な開催準備を推進するに当たり、両大会共通の開催準備総合計画とするため。

2 改正の内容

別紙のとおり

※計画名の改称と第 2 6 回全国障害者スポーツ大会に係る計画の追加

3 施行日

令和 2 年 2 月 1 7 日

第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国

| ① | 年 度 | 平成 2 9 年度 | 平成 3 0 年度 | 令和元年度 | 令和 2 年度 | 令和 3 年度 | |
|----------------|---------------------|-----------------------------|---------------------------|---|----------------------|-------------------------|-------------|
| | 西 暦 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | |
| | 逆 年 | (開催 9 年前) | (開催 8 年前) | (開催 7 年前) | (開催 6 年前) | (開催 5 年前) | |
| | 国体開催県 | 愛媛県 | 福井県 | 茨城県 | 鹿児島県 | 三重県 | |
| ② | 開催手続 | 開催内々定 | | | 県議会開催決議(R3.2) | 開催内定 | |
| | | 開催要望書提出 (平成27年4月17日) | | | 中央競技団体 正規視察 | 開催申請書提出 (文部科学省・日スポ協) | |
| ③ | 組 織 | 準備委員会 | | 国スポ・障スポ準備委員会 | | | |
| | | 総 会 | | | | | |
| | | 常任委員会 | 広報・県民運動専門委員会 | 全国障害者スポーツ大会 専門委員会 | 宿泊・衛生・観光専門委員会 | 警備・消防・防災専門委員会 | |
| | | 総務企画専門委員会 | | | 輸送・交通専門委員会 | | |
| | | 競技運営専門委員会 | | | 式典・会場専門委員会 | | |
| | | 施設整備専門委員会 | | | 募金・協賛推進専門委員会 | | |
| | | | 必要に応じて各専門委員会内に部会を設置 | | | | |
| | 全体計画 | | 開催基本方針等 | | | 開催基本構想策定 | 開催準備総合計画 |
| | | | 開催準備総合計画 | | | | |
| | 総務企画 | 会場地選定 経費負担 | 会場地市町村選定基本方針 | 正式競技、特別競技、公開競技、 開・閉会式 会場地市町村選定(数次) | | 開催会場の決定 | |
| | | | 会場地市町村選定基準 | | | デモンストレーションスポーツ会場地市町村選定 | |
| | | 県及び会場地市町村の 業務分担・経費負担基本方針 | 県及び会場地市町村の 業務分担・経費負担細目 | | | | |
| | | | | 競技団体及び市町村への意向調査・ヒアリング | | | |
| | 文化プログラム | | | | | | 文化プログラム基本方針 |
| | 行幸啓関係 | | | | | | |
| 総合案内 | | | | | | | |
| 競技運営 | 競技運営 | 競技役員等養成基本計画 | 競技役員等養成事業 | | | | |
| | | 競技役員等編成基本方針 | 公開競技基本方針 | | 記録業務基本方針 | | |
| | 競技用具 | 競技役員等養成基本方針 | 競技運営基本方針 | デモンストレーション スポーツ実施基本方針 | デモンストレーションスポーツ実施競技選定 | 競技用具整備基本方針 | |
| 施設整備 | 競技・式典 会場 情報通信 | 競技施設整備基本方針 | 競技施設基準 | 競技施設整備調査 | 競技施設整備計画 | | |
| | | | | | | | |
| 広報県民運動 | 広 報 | | 広報基本方針・基本計画 | 愛称、スローガン、マスコットキャラクター、 イメージソング等 募集・決定 | | 開催内定イベント | |
| | 県民運動 | | | 県民運動基本方針 | 県民運動基本計画 | | |
| 全国障害者スポーツ大会 | 競技運営 | | | | 会場地選定の 進め方 | 正式競技(会場地選定) | |
| | | | | | 大会に向けた課題の整理 | | |
| 宿泊衛生観光 | 宿 泊 | | | | 宿泊基本方針 | 宿泊基本計画 | |
| | 医事・衛生 | | | | 医事・衛生基本方針 | 医事・衛生基本計画 | |
| 輸送交通 | 輸送・交通 | | | | 輸送・交通基本方針 | 輸送・交通基本計画 | |
| 式典会場 | 式 典 会 場 | | | | 式典基本方針 | 式典基本構想 | |
| 警備消防防災 | 警備・消防 | | | | | 警備・消防・防災 基本方針・基本計画 | |
| 募金・協賛 | 募金・協賛 | | | | 募金・企業協賛 推進・要項基本方針 | | |
| ④ 準備 組織等 | 市町村 | 市町村担当者会議 | | | | 会場地市町村国スポ | |
| | 競技団体 | 競技団体担当者会議 | 競技運営計画・競技役員等養成計画の作成 | | 競技役員等養成の推進 | | |

障害者スポーツ大会開催準備総合計画

| 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|-------------------|--|----------------------------------|-------------|----------------------|
| 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 |
| (開催4年前) | (開催3年前) | (開催2年前) | (開催1年前) | (開催年) |
| 栃木県 | 佐賀県 | 滋賀県 | 青森県 | 宮崎県 |
| | 開催決定・会期決定 文部科学省・日スポ協 総合視察 | | 国スポリハーサル大会 | 障スポリハーサル大会 |
| | 実行委員会 | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | 開催準備総合計画 | | | 大会報告書 |
| | | | | |
| | 文化プログラム実施計画・実施要項・募集 | | | 文化プログラムの実施 |
| | 警衛基本方針・基本計画 | 警衛等実施計画、日程等調整 | | 日程最終調整 |
| | 総合案内基本方針 | 総合案内準備の推進 | | 総合案内 |
| | | | 競技役員等編成 | 総監督会議 |
| | 記録関係業務基本計画 | 記録関係業務運営要綱 | | 記録本部 |
| リハーサル大会 開催基準要綱 | 競技日程決定 | | リハーサル大会実施本部 | 総合・競技別 プログラム |
| 競技用具整備計画 | 競技用具整備の推進 | | | |
| | 県・市町村の競技施設及び式典会場整備の推進 | | | |
| 情報通信基本方針 | 情報通信基本計画 | 情報通信システムの調整 | | 情報通信本部 |
| | 広報活動の推進(ホームページ、広報紙、ポスター、懸垂幕、横断幕、記録映像等) | | | |
| | 開催決定イベント | | 開催1年前イベント | 全国報道者会議 |
| | 県民運動の指針(各種媒体の作成及び配布、花いっぱい運動等の実施団体の支援など) | | | 報道本部 |
| | ボランティアの募集・養成 | | | |
| オープン競技(会場地選定) | | 競技用具整備 | | 大会実施本部 |
| | 競技役員等の養成・ボランティア募集・養成等 | | | |
| | | | 宿泊要項 | 宿泊本部 |
| | 宿泊準備の推進(総合配宿計画、広域配宿及び民泊基本計画等) | | | |
| | 標準献立作成基本方針 | 標準献立普及実施要領 | 標準献立普及講習 | |
| 医事・衛生対策各種要項 | 医療救護要項 | 医事・衛生準備の推進(食品衛生、環境衛生、馬事衛生、防疫対策等) | | 救護本部・救護所 馬事衛生対策本部 |
| 輸送・交通業務指針 | 全国輸送基礎調査 | 開・閉会式輸送実施計画 | | 輸送本部 |
| | 全国輸送計画・会場地輸送調整 | 交通規制計画 | | |
| 式典基本計画 | 式典準備の推進(式典演技、式典音楽、炬火リレー、リハーサル等) | | | 式典本部 |
| | 会場管理基本方針 | 会場管理基本計画 | 会場管理体制の整備 | |
| | 警備・消防・防災準備の推進(関係機関との協力体制構築、業務指針、マニュアル等の作成など) | | | 警備本部 消防・防災本部 |
| | 募金・企業協賛活動の推進 | | | |
| | | | | |
| 準備委員会(随時設置) | 会場地市町村国スポ実行委員会 | | | 市町村競技会実施本部 |
| | | | | |

第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会

第81回国民スポーツ大会会場地市町村第5次選定

第81回国民スポーツ大会開催基本方針、会場地選定基本方針、会場地選定基準及び会場地市町村選定の進め方に基づき、市町村と競技団体の開催希望が合致したものを第5次選定とする。

| 番号 | 競技(種目) | | 種別 | 市町村 | 開催予定施設 |
|----|------------|--------------------|------|-----|-----------------|
| 1 | 水泳 | オープンウォーター スイミング | 全種別 | 延岡市 | (仮称) 下阿蘇ビーチ特設会場 |
| 2 | ホッケー | | 全種別 | 都農町 | 都農町藤見公園 |
| 3 | ソフトボール | | 成年男子 | 延岡市 | 西階野球場 |
| | | | | 門川町 | 門川海浜総合公園野球場 |
| 4 | 柔道 | | 全種別 | 延岡市 | (仮称) 新宮崎県体育館 |
| 5 | スポーツクライミング | リード | 全種別 | 木城町 | (仮称) 木城町体育館特設会場 |
| | | ボルダリング | | | 木城町体育館 |
| 6 | 空手道 | | 全種別 | 宮崎市 | 宮崎県武道館 |

注) 開催予定施設は、現時点で競技を開催できる能力を有する施設として判断したものであり、今後、中央競技団体視察の結果等により、会場の追加・変更等が生じる場合がある。

第81回国民スポーツ大会会場地市町村第6次選定

第81回国民スポーツ大会開催基本方針、会場地選定基本方針、会場地選定基準及び会場地市町村選定の進め方に基づき、市町村と競技団体の開催希望が合致したものを第6次選定とする。

| 番号 | 競技(種目) | 種別 | 市町村 | 開催予定施設 |
|----|--------|-----|-----|----------|
| 1 | 卓球 | 全種別 | 宮崎市 | 宮崎市総合体育館 |

注) 開催予定施設は、現時点で競技を開催できる能力を有する施設として判断したものであり、今後、中央競技団体視察の結果等により、会場の追加・変更等が生じる場合がある。

第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会 県民運動基本方針

第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会(以下「大会」という。)の県民運動は、「スポーツの持つ力と可能性」により、広く県民に元気・勇気・感動を与え、県民総参加型による“おもてなしの心”あふれる大会の実現を目指して、次の方針に基づき展開する。

この大会の開催を契機に、スポーツの普及・振興を図り、県民の健康増進や生きがいづくりに取り組むとともに、本県の多彩な魅力の発信やスポーツを生かした「未来のみやざき」づくりを推進する。

- 1 すべての県民が、大会やイベント、ボランティア活動などに主体的に参加し、地域が一体となって大会を盛り上げる。
- 2 すべての県民が、来県者等を“おもてなしの心”で温かく迎える。
- 3 すべての県民が、スポーツとの関わりを通じ、スポーツの素晴らしさを体感し、生涯にわたりスポーツ活動に親しむ。
- 4 すべての県民が、来県者等との交流を通じて、宮崎県の多彩な魅力を全国へ向けて発信する。

第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会
愛称・スローガン最優秀作品及び優秀作品

1 募集期間

令和元年8月12日(月)から令和元年9月30日(月)まで

2 応募者数及び応募作品数

応募者数 6,512人

応募作品数 10,738点(愛称:5,451点/スローガン5,287点)

3 最優秀作品及び優秀作品

(1) 愛称

| 区分 | 作品 | 応募者 |
|-------|---------------------|----------------------------------|
| 最優秀作品 | 日本のひなた宮崎国スポ・障スポ | 安藤 慎 宮崎市在住 宮崎大学教育学部附属中学校3年 |
| 優秀作品 | ひなたスマイルみやざき国スポ・障スポ | 樋口 麻耶 宮崎市在住 主婦 |
| | ひなたに来んね!みやざき国スポ・障スポ | 鈴木 富士夫 埼玉県ふじみ野市在住 自営業 |
| | てげよか宮崎国スポ・障スポ | 川畑 光陽 小林市在住 小林市立野尻中学校2年 |

(2) スローガン

| 区分 | 作品 | 応募者 |
|-------|-------------------|---------------------------------|
| 最優秀作品 | 紡ぐ感動 神話となれ | 原口 杏奈 都城市在住 宮崎県立都城西高等学校2年 |
| 優秀作品 | 翔べ フェニックスの翼に乗って | 松尾 隆之 福岡県福岡市在住 自営業 |
| | 呼びおこせ感動の波を日向から | 森屋 佑香 宮崎市在住 宮崎市立生目中学校2年 |
| | ひなたから 未来へつなぐ ゆめ感動 | 保岡 直樹 東京都世田谷区在住 自営業 |

第6回常任委員会
決定事項

※別冊を御覧ください。

第 8 1 回 国 民 ス ポ ー ツ 大 会 ・
第 2 6 回 全 国 障 害 者 ス ポ ー ツ 大 会
開 催 基 本 構 想
(素 案)



令 和 年 月

第 8 1 回 国 民 ス ポ ー ツ 大 会 ・ 第 2 6 回 全 国 障 害 者 ス ポ ー ツ 大 会

宮 崎 県 準 備 委 員 会

第 8 1 回 国民スポーツ大会 正式競技 会場地市町村第 7 次選定

| 番号 | 競技 (種目) | | 種 別 | 市町村 | 開催予定施設 |
|----|---------|-----|-----|-----|----------------|
| 1 | 陸上競技 | | 全種別 | 都城市 | (仮称) 新宮崎県陸上競技場 |
| 2 | 水泳 | 競泳 | 全種別 | 宮崎市 | (仮称) 新宮崎県プール |
| | | 水球 | 全種別 | | |
| 3 | 体操 | 競技 | 全種別 | 延岡市 | (仮称) 新宮崎県体育館 |
| | | 新体操 | 全種別 | | |

第81回国民スポーツ大会 公開競技 会場地市町村第1次選定

| 番号 | 競技 | 種別 | 市町村 | 開催予定施設 |
|----|-----------|-----|-----|----------------|
| 1 | 綱引 | 全種別 | 日南市 | 日南総合運動公園多目的体育館 |
| 2 | 武術太極拳 | 全種別 | 延岡市 | (仮称) 新宮崎県体育館 |
| 3 | パワーリフティング | 全種別 | 延岡市 | (仮称) 新宮崎県体育館 |
| 4 | バウンドテニス | 全種別 | 都城市 | 早水公園体育文化センター |
| 5 | エアロビック | 全種別 | 木城町 | 木城町体育館 |

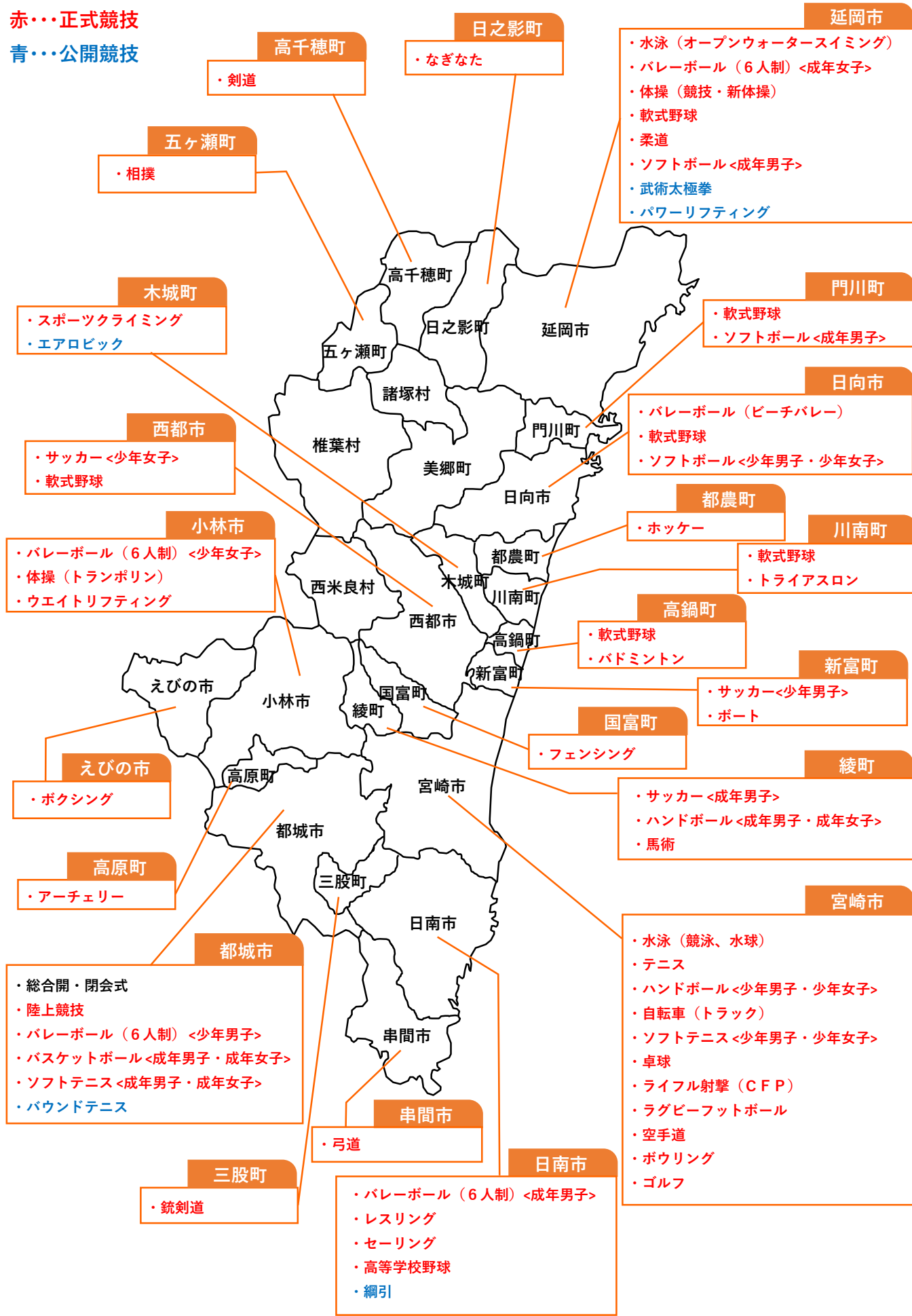
第81回国民スポーツ大会 総合開・閉会式 会場地選定

| 内 容 | 開催予定施設 |
|---------|------------------------------------|
| 総合開・閉会式 | (仮称) 新宮崎県陸上競技場 【雨天時：都城市総合文化ホール】 |

第 8 1 回国民スポーツ大会会場地市町村選定状況一覧【市町村別】

赤・・・正式競技

青・・・公開競技



第 8 1 回国民スポーツ大会会場地市町村選定状況一覧【競技別】

【開・閉会式】

| 内 容 | 市町村 | 開催予定施設 |
|---------|-----|-----------------------------------|
| 総合開・閉会式 | 都城市 | (仮称)新宮崎県陸上競技場 【雨天時：都城市総合文化ホール】 |

【正式競技】

| 番号 | 競技(種目) | 種 別 | 市町村 | 開催予定施設 | |
|----|------------|----------------|------|--|----------------|
| 1 | 陸上競技 | 全種別 | 都城市 | (仮称)新宮崎県陸上競技場 | |
| 2 | 水泳 | 競泳 | 全種別 | 宮崎市 | (仮称)新宮崎県プール |
| | | 飛込 | 全種別 | | |
| | | 水球 | 全種別 | 宮崎市 | (仮称)新宮崎県プール |
| | | アーティスティックスイミング | 少年女子 | | |
| | | オープンウォータースイミング | 全種別 | 延岡市 | (仮称)下阿蘇ビーチ特設会場 |
| 3 | サッカー | 成年男子 | 綾町 | 綾国際交流広場サッカー場 綾町自然休養村公園小田爪多目的競技場 | |
| | | 少年女子 | 西都市 | 清水台総合公園多目的広場 | |
| | | 少年男子 | 新富町 | (仮称)新富町フットボールセンター | |
| 4 | テニス | 全種別 | 宮崎市 | ひなた宮崎県総合運動公園庭球場 | |
| 5 | ボート | 全種別 | 新富町 | 富田浜漕艇場 | |
| 6 | ホッケー | 全種別 | 都農町 | 都農町藤見公園 | |
| 7 | ボクシング | 全種別 | えびの市 | えびの市民体育館 | |
| 8 | バレーボール | 6人制 | 成年男子 | 日南市 | 日南市北郷体育館 |
| | | | 成年女子 | 延岡市 | (仮称)新宮崎県体育館 |
| | | | 少年男子 | 都城市 | 早水公園体育文化センター |
| | | | 少年女子 | 小林市 | 小林市市民体育館 |
| | ビーチバレーボール | 全種別 | 日向市 | (仮称)お倉ヶ浜海岸特設会場 | |
| 9 | 体操 | 競技 | 延岡市 | (仮称)新宮崎県体育館 | |
| | | 新体操 | | | 全種別 |
| | | トランポリン | 全種別 | 小林市 | 小林市市民体育館 |
| 10 | バスケットボール | 成年男子 | 都城市 | 早水公園体育文化センター | |
| | | 成年女子 | | 早水公園体育文化センター 高城運動公園総合体育館 高崎総合公園総合体育館 | |
| | | 少年男子 | | | |
| | | 少年女子 | | | |
| 11 | レスリング | 全種別 | 日南市 | 日南総合運動公園多目的体育館 | |
| 12 | セーリング | 全種別 | 日南市 | 日南市大堂津ヨット競技場 | |
| 13 | ウエイトリフティング | 全種別 | 小林市 | 小林市文化会館 | |
| 14 | ハンドボール | 成年男女 | 綾町 | 綾てるはドーム | |
| | | 少年男女 | 宮崎市 | 宮崎市佐土原体育館 宮崎市天ヶ城公園体育館 宮崎市清武体育館 | |
| 15 | 自転車 | トラック | 宮崎市 | ひなた宮崎県総合運動公園自転車競技場 | |
| | | ロード | 全種別 | | |
| 16 | ソフトテニス | 成年男女 | 都城市 | (仮称)都城運動公園庭球場 | |
| | | 少年男女 | 宮崎市 | 生目の杜運動公園テニスコート | |
| 17 | 卓球 | 全種別 | 宮崎市 | 宮崎市総合体育館 | |
| 18 | 軟式野球 | 成年男子 | 延岡市 | 西階野球場 | |
| | | | 日向市 | お倉ヶ浜総合公園野球場 | |
| | | | 高鍋町 | 高鍋総合運動公園MASUDAスタジアム | |
| | | | 川南町 | 川南町運動公園野球場 | |
| | | | 門川町 | 門川海浜総合公園野球場 | |
| | | | 西都市 | 西都原運動公園野球場 | |

| 番号 | 競技(種目) | 種別 | 市町村 | 開催予定施設 | |
|----|------------|-----------|------|---------------------------|--|
| 19 | 相撲 | 全種別 | 五ヶ瀬町 | 五ヶ瀬町総合公園Gパーク五ヶ瀬ドーム | |
| 20 | 馬術 | 全種別 | 綾町 | 綾馬事公苑 | |
| 21 | フェンシング | 全種別 | 国富町 | アリーナくにとみ | |
| 22 | 柔道 | 全種別 | 延岡市 | (仮称)新宮崎県体育館 | |
| 23 | ソフトボール | 成年男子 | 延岡市 | 西階野球場 | |
| | | | 門川町 | 門川海浜総合公園野球場 | |
| | | 成年女子 | | | |
| | | | 日向市 | お倉ヶ浜総合公園広場 お倉ヶ浜総合公園野球場 | |
| 24 | バドミントン | 全種別 | 高鍋町 | 井上商店スポーツセンター高鍋町総合体育館 | |
| 25 | 弓道 | 近的 | 全種別 | 串間市 | 串間市堂弓道場 |
| | | 遠的 | | | (仮称)串間市総合運動公園特設競技場 |
| 26 | ライフル射撃 | 50m | 全種別 | | |
| | | 10m・AP | 全種別 | | |
| | | BR・BP | 全種別 | | |
| | | CFP | 成年男子 | 宮崎市 | 宮崎県警察学校射撃場 |
| 27 | 剣道 | 全種別 | 高千穂町 | 高千穂町武道館 | |
| 28 | ラグビーフットボール | 7人制 | 成年男子 | 宮崎市 | ひなた宮崎県総合運動公園ラグビー場 ひなた宮崎県総合運動公園第3競技場 |
| | | | 女子 | | |
| | | 15人制 | 少年男子 | | |
| 29 | スポーツクライミング | リード | 全種別 | 木城町 | (仮称)木城町体育館特設会場 |
| | | ボルダリング | | | 木城町体育館 |
| 30 | カヌー | スプリント | 全種別 | | |
| | | スラローム | 全種別 | | |
| | | ワイルドウォーター | 全種別 | | |
| 31 | アーチェリー | 全種別 | 高原町 | 高原町総合運動公園多目的芝生広場 | |
| 32 | 空手道 | 全種別 | 宮崎市 | ひなた宮崎県総合運動公園ひなた武道館 | |
| 33 | 銃剣道 | 全種別 | 三股町 | 三股町武道体育館 | |
| 34 | なぎなた | 全種別 | 日之影町 | 日之影町立日之影中学校体育館 | |
| 35 | ボウリング | 全種別 | 宮崎市 | 宮崎エースレーン | |
| 36 | ゴルフ | 成年男子 | 宮崎市 | 宮崎レイクサイドゴルフ倶楽部 | |
| | | 女子 | | 宮崎カントリークラブ | |
| | | 少年男子 | | ハイビスカスゴルフクラブ | |
| 37 | トライアスロン | 全種別 | 川南町 | (仮称)川南漁港特設トライアスロン会場 | |

【特別競技】

| 番号 | 競技 | 種別 | 会場地 | 競技会場 |
|----|--------|----|-----|-------------------------------------|
| 1 | 高等学校野球 | 硬式 | 日南市 | 天福公園野球場 日南総合運動公園野球場 南郷中央公園野球場 |
| | | 軟式 | | |

【公開競技】

| 番号 | 競技 | 種別 | 会場地 | 競技会場 |
|----|-----------|-----|-----|----------------|
| 1 | 綱引 | 全種別 | 日南市 | 日南総合運動公園多目的体育館 |
| 2 | ゲートボール | 全種別 | | |
| 3 | 武術太極拳 | 全種別 | 延岡市 | (仮称)新宮崎県体育館 |
| 4 | パワーリフティング | 全種別 | 延岡市 | (仮称)新宮崎県体育館 |
| 5 | グラウンド・ゴルフ | 全種別 | | |
| 6 | バウンドテニス | 全種別 | 都城市 | 早水公園体育文化センター |
| 7 | エアロビック | 全種別 | 木城町 | 木城町体育館 |

第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会 宮崎県準備委員会専門委員会規程改正

第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会宮崎県準備委員会専門委員会規程を次のとおり改正する。

1 改正の理由

第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会の開催準備を総合的・効率的に推進するため、「宿泊・衛生専門委員会」「輸送・交通専門委員会」「式典専門委員会」を設置する。

2 改正の内容

別紙のとおり

3 施行日

令和 2 年 7 月 6 日

第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会 宮崎県準備委員会専門委員会規程

(趣旨)

第 1 条 この規程は、第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会宮崎県準備委員会会則第 1 4 条第 3 項の規定に基づき、専門委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(委員会の種類等)

第 2 条 委員会の種類並びに常任委員会からの付託事項及び委任事項は、別表のとおりとする。

(役員)

第 3 条 委員会に次の役員を置く。

(1) 委員長 1 名

(2) 副委員長 1 名

2 委員長及び副委員長は、第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会宮崎県準備委員会会長(以下「会長」という。)が委嘱する。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 4 条 委員会は、必要に応じて委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 委員長は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(部会)

第 5 条 委員会は、運営上必要があるときは、部会を設けることができる。

2 部会の委員は、会長が委嘱する。

3 部会に関する事項は、委員長が定める。

(委任)

第 6 条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が会長の承認を得て別に定める。

附 則

この規程は、平成 2 9 年 1 0 月 3 0 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 3 0 年 7 月 9 日から施行する。

附 則

この規程は、令和元年 7 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 2 年 7 月 6 日から施行する。

別表（第2条関係）

| 委員会名 | 付託事項 | 委任事項 |
|--------------------------|---|--|
| 総務企画専門委員会 | <ol style="list-style-type: none"> 1 総合的な計画の立案に関すること。 2 会場地選定に関すること。 3 県及び会場地市町村の業務分担に関すること。 4 他の専門委員会に属さない重要な事項に関すること。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 総合的な計画の推進に関すること。 2 文化プログラムに関すること。 3 他の専門委員会に属さない事項に関すること。 |
| 競技運営専門委員会 | <ol style="list-style-type: none"> 1 競技運営等の基本的事項に関すること。 2 競技運営に係る計画の立案に関すること。 3 競技用具の整備計画の事項に関すること。 4 その他の競技運営に係る重要な事項に関すること。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 競技運営に係る計画の推進に関すること。 2 競技役員等の養成及び編成に関すること。 3 競技用具整備の推進に関すること。 4 デモンストレーションスポーツに関すること。 5 リハーサル大会に関すること。 6 競技記録に関すること。 7 その他競技運営に関すること。 |
| 施設整備専門委員会 | <ol style="list-style-type: none"> 1 競技施設及び関連施設の基本的事項に関すること。 2 開・閉会式会場及び関連施設整備の基本的事項に関すること。 3 情報通信施設の基本的事項に関すること。 4 その他施設に係る重要事項に関すること。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 競技施設及び関連施設の調査、調整等に関すること。 2 開・閉会式会場及び関連施設の調査、調整等に関すること。 3 情報通信施設の調査、調整等に関すること。 4 その他施設に係る調査、調整等に関すること。 |
| 広報・県民運動 専門委員会 | <ol style="list-style-type: none"> 1 広報の基本的事項に関すること。 2 県民運動の基本的事項に関すること。 3 その他広報及び県民運動に係る重要な事項に関すること。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 広報及び啓発の実施に関すること。 2 県民運動の推進に関すること。 3 愛称・スローガン、マスコット等に関すること。 4 報道機関との調整に関すること。 5 記録映像及び記録写真に関すること。 6 その他広報及び県民運動に関すること。 |
| 全国障害者 スポーツ大会 専門委員会 | <ol style="list-style-type: none"> 1 全国障害者スポーツ大会の競技運営に係る計画の立案に関すること。 2 その他全国障害者スポーツ大会に係る重要な事項に関すること。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 全国障害者スポーツ大会の競技運営に係る計画の推進に関すること。 2 その他全国障害者スポーツ大会に関すること（他の専門委員会の委任事項は除く）。 |

| 委員会名 | 付託事項 | 委任事項 |
|----------------|--|---|
| 宿泊・衛生 専門委員会 | <ol style="list-style-type: none"> 1 宿泊の基本的事項に関する事 2 医事・衛生の基本的事項に関する事 3 その他宿泊及び医事・衛生に係る重要な事項に関する事 | <ol style="list-style-type: none"> 1 宿泊業務に関する事 2 標準献立及び食品調達に関する事 3 医療救護及び防疫に関する事 4 食品衛生及び環境衛生に関する事 5 馬事衛生に関する事 6 その他宿泊及び医事衛生に関する事 |
| 輸送・交通 専門委員会 | <ol style="list-style-type: none"> 1 輸送及び交通の基本的事項に関する事 2 その他輸送・交通に係る重要な事項に関する事 | <ol style="list-style-type: none"> 1 全国輸送に関する事 2 開・閉会式の輸送に関する事 3 競技会場の輸送に関する事 4 その他輸送及び交通に関する事 |
| 式典専門委員会 | <ol style="list-style-type: none"> 1 式典の基本的事項に関する事 2 その他式典に係る重要な事項に関する事 | <ol style="list-style-type: none"> 1 開・閉会式の企画及び運営に関する事 2 式典音楽に関する事 3 式典演技に関する事 4 大会旗・炬火リレーに関する事 5 その他式典に関する事 |

第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会 会場地市町村選定基本方針及び会場地市町村選定基準改正

1 改正の理由

第 8 1 回国民スポーツ大会および第 2 6 回全国障害者スポーツ大会の一体的な開催準備を推進するにあたり、両大会共通の会場地市町村選定基本方針等とするため。

2 改正の内容

(1) 第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会
会場地選定基本方針（別紙 1 のとおり）

| 改正前 | 改正後 |
|-------|---|
| (略) | (略) |
| 1 (略) | 1 (略) |
| 2 (略) | 2 (略) |
| 3 (略) | 3 (略) |
| | 4 <u>全国障害者スポーツ大会の競技会場については、全国障害者スポーツ大会開催基準要綱に基づき、原則として第 8 1 回国民スポーツ大会の会場を使用するものとする。</u> |
| | 5 <u>全国障害者スポーツ大会の会場地は、選手等の負担軽減の観点を考慮する。</u> |

(2) 第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会
会場地選定基準（別紙 2 のとおり）

| 改正前 | 改正後 |
|--|---|
| (略) | (略) |
| 1 選定の対象 正式競技と特別競技の会場地市町村とする。なお、公開競技、デモンストレーションスポーツについては、別途選定する。 | 1 選定の対象 正式競技と特別競技の会場地市町村とする。なお、公開競技、デモンストレーションスポーツ、 <u>全国障害者スポーツ大会のオープン競技については、別途選定する。</u> |
| 2 (略) | 2 (略) |

第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会 会場地市町村選定基本方針

第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会における会場地は、地方スポーツの普及・振興と地方文化の発展に寄与することを目的とする国民スポーツ大会の趣旨及び第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会開催基本方針に基づき、次のとおり選定する。

- 1 会場地は、県内それぞれの地域に根ざしたスポーツ文化活動の振興を図るため、地域バランスに配慮して、可能な限り県内各地に分散する。
- 2 同一競技は、同一市町村で行うことを原則とするが、2 市町村以上で開催する場合は可能な限り近隣市町村で行う。
- 3 会場の選定に当たっては、市町村における開催希望、当該希望競技に係る各種競技会の開催実績、開催準備、大会運営、実施競技団体の意向、競技施設の状況、宿泊受入能力、交通の利便性、その他地域振興等を考慮し、総合的に判断する。
- 4 全国障害者スポーツ大会の競技会場については、全国障害者スポーツ大会開催基準要綱に基づき、原則として第 8 1 回国民スポーツ大会の会場を使用するものとする。
- 5 全国障害者スポーツ大会の会場地は、選手等の負担軽減の観点を考慮する。

第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会 会場地市町村選定基準

第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会（以下「大会」という。）における会場地市町村は、第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会会場地市町村選定基本方針に基づき、次により選定する。

1 選定の対象

正式競技と特別競技の会場地市町村とする。

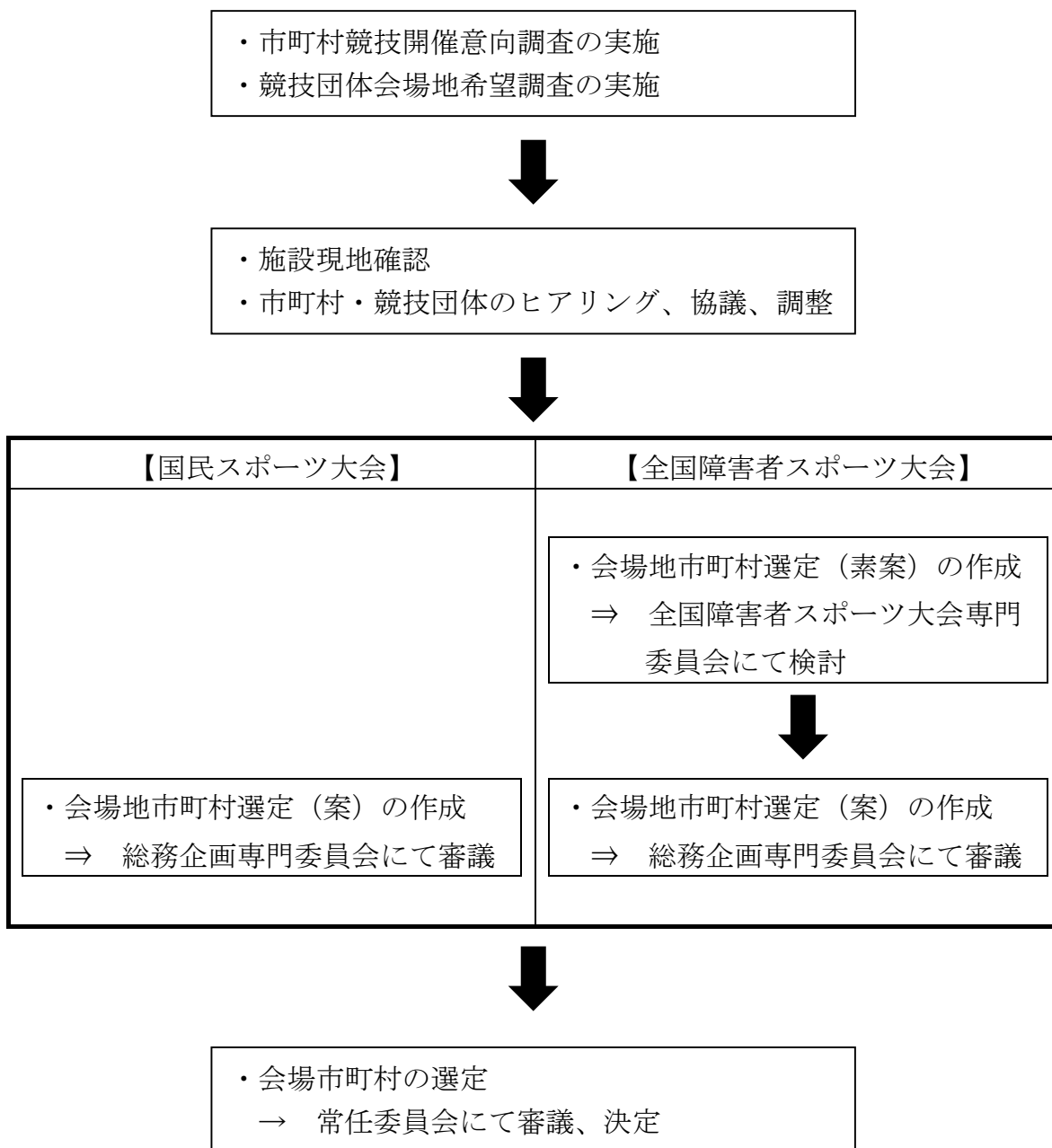
なお、公開競技、デモンストレーションスポーツ、全国障害者スポーツ大会のオープン競技については、別途選定する。

2 選定の基準

次の基準により、総合的な判断、評価のもとに選定する。

- (1) 施設所有者の同意を前提として、市町村の開催希望と競技団体の意向が原則として合致していること。
- (2) 同一競技を複数の市町村に分けて実施する場合は、大会運営に支障をきたさないこと。
- (3) 競技施設は、「国民体育大会開催基準要項細則（公益財団法人日本スポーツ協会）」で定める施設基準（以下「施設基準」という。）を踏まえ、施設の新設・改修等に当たっては、大会開催後の地域スポーツ振興への有効的な活用を考慮すること。
なお、施設の状況等によっては、施設基準の弾力的な運用を関係機関に対し要請する。
- (4) 競技役員等の確保、付帯施設（観客席、駐車場、練習会場等）の整備、各種競技会の開催実績、地域住民ボランティアとしての参画など大会運営に必要な環境や体制が十分整えられること。
- (5) 選手・役員の輸送及び交通手段並びに宿舎を確保できること。

[参考] 選定の手続き (概要)



第 26 回全国障害者スポーツ大会 県及び会場地市町村の業務分担・経費負担基本方針

第 26 回全国障害者スポーツ大会（以下「大会」という。）の開催に当たり、県及び会場地市町村は、次の方針に基づき業務を分担し、経費を負担するものとする。

1 県が担当する業務と負担する経費

- (1) 全県的な業務推進の基本となる計画の策定及び当該計画の実施並びに推進に必要な総合調整、連絡及び助言を担当し、経費を負担する。
- (2) 開・閉会式の実施及び大会実施本部の運営等、全県的・総合的な大会の準備及び運営に関する業務を担当し、経費を負担する。

2 会場地市町村が担当する業務と負担する経費

- (1) 競技会場の主催者として、競技会実施本部の運営に関する業務を担い、経費を負担する。

3 業務分担、経費負担の細目

県及び会場地市町村の業務分担、経費負担の細目については、次のとおり定める。

- (1) 県と会場地市町村の業務分担の細目は、別表 1 のとおりとする。
- (2) 県と会場地市町村の経費負担の細目は、別表 2 のとおりとする。
- (3) この細目に定めのない事項で必要なものについては、県と会場地市町村が協議の上、別に定める。

別表 1

| 区 分 | 主な内容 | 県 | 市町村 |
|-------------|--------------------------------|---|-----|
| 総務企画 | 開催準備計画の策定（全般） | ○ | |
| | 開催準備計画の策定（競技会運営、独自事業） | | ○ |
| | 大会実施本部の設置・運営（係員の編成・業務説明会等を含む） | ○ | |
| | 競技会実施本部の設置・運営（係員の編成・業務説明会等を含む） | | ○ |
| | 大会実施本部員等必携の作成 | ○ | |
| | 競技会実施本部員等必携の作成 | | ○ |
| | 実施本部員、競技役員・補助員、各種ボランティア等の服飾の整備 | ○ | |
| | 式典の企画・運営 | ○ | |
| 行啓等 | 行啓本部の設置・運営、行啓計画・警備計画の策定 | ○ | |
| | 御泊所、御休憩所、御席（ロイヤルボックス等）等の整備 | ○ | |
| 歓迎・案内 | ふれあい広場の設置・運営（開・閉開式会場） | ○ | |
| | ふれあい広場の運営（競技会場） | | ○ |
| | 会場地独自のおもてなし | | 任意 |
| | 案内・物品貸与・湯茶接待等の各種サービス施設の設置 | ○ | |
| | 案内・物品貸与・湯茶接待等の各種サービス施設の運営・管理 | | ○ |
| 競技施設 | 競技会場の仮設施設の整備、会場設営 | ○ | |
| | 競技会場の管理・清掃美化 | | ○ |
| 競技運営 | 競技実施要項・競技別実施要領の策定 | ○ | |
| | 競技別プログラムの作成 | ○ | |
| | 競技会の運営（開始式・表彰式・競技記録の報告等） | | ○ |
| | 競技用具の整備 | ○ | |
| | 競技会運営用の消耗品の整備 | | ○ |
| | 競技役員等の養成および編成 | ○ | |
| 広報・ 県民運動 | 各種広報媒体物・行事等における大会PR | ○ | ○ |
| | 県民運動の普及啓発・推進 | ○ | |
| | 会場市町村における県民運動の推進 | | ○ |
| | 各種ボランティアの募集・養成・登録 | ○ | |
| | 競技会場へのボランティア配置 | ○ | |
| | 競技会場におけるボランティアの総括（配置・指示・調整等） | | ○ |
| 宿泊・衛生 | 宿泊計画の作成および配宿の実施、弁当の調達・斡旋 | ○ | |
| | 弁当引換所の運営・管理 | | ○ |
| | 医療救護計画の策定、救護所等の設置 | ○ | |
| | 救護所等の運営・管理 | | ○ |
| 輸送・交通 | 輸送計画の策定、輸送の実施、駐車場の確保 | ○ | |
| | 駐車場の管理運営・交通整理の実施 | | ○ |
| 警備・消防 | 警備・消防防災計画の策定 | ○ | |
| | 警備・消防防災の実施 | | ○ |

別表 2

| 区 分 | 主な内容 | 県 | 市町村 | 備 考 |
|------------------------|-----------------------------|---|---------------------|---|
| 総務企画 | 大会従事者の保険 | ○ | | |
| | 大会招待者に対する招待状の発送 | ○ | | 市町村独自招待分は市町村負担 |
| | I Dカードの作成 | ○ | | |
| | 実施本部の備品 | ○ | | コピー機、F A X等 |
| | 上記以外の備品および消耗品 | | ○ | 筆記用具等 |
| | 実施本部員、競技役員・補助員、各種ボランティア等の服飾 | ○ | | |
| 行啓等 | 行啓・お成り | ○ | | |
| 歓迎・案内 | 総合案内所・看板設置 | ○ | | |
| | ふれあい広場の設置 | ○ | | |
| | ドリンクサービスの飲料 | ○ | | 市町村独自提供分は市町村負担 |
| 施設整備 | 競技会場の仮設施設の整備、会場設営 | ○ | | |
| | 会場使用料 | ○ | | 使用料減免への協力 |
| | トイレ・スロープ等仮設物の設置 | ○ | | 市町村の判断で常設設備または、独自の仮設設備（装飾等）の整備を行う場合は市町村負担 |
| | 音響設備、通信機器等の配備 | ○ | | |
| | 会場装飾、看板、サイン表示等 | ○ | | |
| 競技運営 | 競技実施本部員の旅費 | | ○ | 先催県視察、宿泊を含む |
| | 競技実施本部員の時間外勤務手当 | | ○ | |
| | 競技実施本部員業務必携の作成・印刷 | | ○ | |
| | 競技運営（主管団体への委託） | ○ | | |
| | 競技役員等の養成・編成 | ○ | | |
| | 競技用具の整備 | ○ | | 国スポと調整・連携 |
| | 表彰物品の作成 | ○ | | 大会メダル、賞状等 |
| | プログラムの作成 | ○ | | 市町村独自プログラムを作成するときは市町村負担 |
| 市町村が出演依頼をする開始式出演団体の旅費等 | | ○ | 内容については競技団体等との調整が必要 | |
| 広報・ 県民運動 | 印刷物・広報物品等の作成 | ○ | | 市町村独自作成分は市町村負担 |
| | 広報イベントの開催 | ○ | | 市町村独自作成分は市町村負担 |
| | ボランティアの募集・養成（パンフレット作成、研修等） | ○ | | 市町村独自作成分は市町村負担 |
| | ボランティアの保険・弁当 | ○ | | |
| 宿泊・衛生 | 選手団等の配宿 | ○ | | |
| | 救護所の設置 | ○ | | |
| 輸送・交通 | 計画バス等の運行 | ○ | | |

第26回全国障害者スポーツ大会の競技運営主管団体について

- 実施競技は、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会が定める「全国障害者スポーツ大会競技規則」に基づき、個人競技及び団体競技あわせて14競技を予定。

| | 正式競技 | 競技運営主管団体 |
|------|-------------------------------|---------------------|
| 個人競技 | 陸上競技（身・知） | 一般財団法人宮崎陸上競技協会 |
| | 水泳（身・知） | 一般財団法人宮崎県水泳連盟 |
| | アーチェリー（身） | 宮崎県アーチェリー協会 |
| | 卓球（身・知・精） サウンドテーブルテニス（身）含む | 宮崎県卓球協会 |
| | フライングディスク（身・知） | 宮崎県障害者フライングディスク協会 |
| | ボウリング（知） | 宮崎県ボウリング連盟 |
| | ボッチャ（身） | 宮崎県ボッチャ協会 |
| 団体競技 | バスケットボール（知） | 一般社団法人宮崎県バスケットボール協会 |
| | 車いすバスケットボール（身） | |
| | ソフトボール（知） | 宮崎県ソフトボール協会 |
| | グラウンドソフトボール（身） | |
| | フットベースボール（知） | |
| | バレーボール（身・知・精） | 宮崎県バレーボール協会 |
| | サッカー（知） | 一般社団法人宮崎県サッカー協会 |

第26回全国障害者スポーツ大会会場地選定の進め方について

1 会場選定に係る基本事項

- (1) 「会場地選定基本方針」 ※本資料の22ページ参照
- (2) 「会場地選定基準」 ※本資料の23・24ページ参照

2 会場地を選定する競技

- (1) 正式競技（14競技）
- (2) オープン競技（今後、別途選定する）

3 会場地選定の流れについて

- (1) 競技運営主管団体への希望調査【5月から7月】
- (2) 市町村希望調査【8月から10月】
 - ・ 国スポ共通の競技 → 「会場地選定基本方針」等に従い、競技団体が希望する会場地市町村へ意向を確認する。
 - ・ 国スポにない競技 → 「会場地選定基本方針」等に従い、各市町村に開催希望の意向調査を実施する。
- (3) 選定作業【10月から12月】
 - ・ 調査の結果を踏まえ、各競技団体・市町村とのヒアリングを実施する。必要に応じて現地調査を実施する。
 - ・ ヒアリング等の結果を踏まえ、市町村と競技団体との意向が合致したものについては、開催に必要な施設、宿泊、交通、その他地域の実情等を総合的に判断し、第1次会場地選定案とする。国スポにない競技については、競合する市町村がない場合に第1次会場地選定案とする。
 - ・ 選定されなかった競技については、第2次会場地選定に向けて、市町村や競技団体と再度調整する。
- (4) 第1次会場地選定案の対象市町村、競技団体による事前了承【12月】
 - ・ 第1次会場地選定案として選定された競技については、会場地となる市町村及び主管団体に文書で了承を得る。
- (5) その後の流れ
 - ・ (4)の結果をもとに、会場地市町村第1次選定（素案）として、本委員会において検討する。
 - ・ 会場地市町村第1次選定（案）として、総務企画専門委員会で審議する。
 - ・ 会場地市町村第1次選定（案）を、常任委員会で審議・決定する。



第 8 1 回 国 民 ス ポ ー ツ 大 会 ・
第 2 6 回 全 国 障 害 者 ス ポ ー ツ 大 会
宮 崎 県 準 備 委 員 会



第 2 回 全 国 障 害 者 ス ポ ー ツ 大 会 専 門 委 員 会

協 議 資 料

令 和 2 年 7 月 2 9 日 (水)

宮 崎 観 光 ホ テ ル 西 館 8 階 ブ リ リ ア ン ト ホ ー ル

協議事項

- 1 協議題 1
選手・チームの育成・強化について P 1

- 2 協議題 2
競技役員の育成について P 3

- 3 協議題 3
ボランティアの養成について P 5

- 4 協議題 4
その他 P 6

協議題 1：選手・チームの育成・強化について

1 現状と取組

(1) 全国障害者スポーツ大会の開催県の参加選手枠(目安) (単位/人)

| 競技名 | 開催県参加枠※1 | H30年の本県出場者数 | 備考 |
|------------------|----------|-------------|---------------------|
| 陸上競技 | 67 | 13 | 全体数960人 |
| 水泳 | 18 | 3 | 全体数310人 |
| アーチェリー | 4 | 0 | 全体数70人 |
| 卓球 サウンドテーブルテニス含む | 19 | 3 | 全体数460人 |
| フライングディスク | 25 | 6 | 全体数400人 |
| ボウリング | 8 | 2 | 全体数200人 |
| ボッチャ ※2 | — | — | 全体数140人 |
| バスケットボール | 12 | 予選敗退 | 男女別 各7チーム 最大168人 |
| 車いすバスケットボール | 12 | 予選敗退 | 男女混合可 7チーム 最大84人 |
| ソフトボール | 15 | 未出場 | 男女混合可 7チーム 最大105人 |
| グランドソフトボール | 15 | 予選敗退 | 男女混合可 7チーム 最大105人 |
| バレーボール | 12 | 予選敗退 | 知的・男女別 各7チーム 最大168人 |
| | 12 | 未出場 | 身体・男女別 各7チーム 最大168人 |
| | 12 | 予選敗退 | 精神・男女混合 7チーム 最大84人 |
| サッカー | 16 | 未出場 | 男女混合可 7チーム 最大112人 |
| フットベースボール | 15 | 未出場 | 男女混合可 7チーム 最大105人 |

※1 個人競技の開催県参加枠は、愛媛大会の実数である。団体競技の枠は、1チームの最大登録人数である。

※2 2021年の三重大会より実施され、三重県参加枠は6名の予定である。開催県以外の都道府県政令指定都市からの出場者は2名(立位1・座位1)の予定である。

(2) これまでの全国障害者スポーツ大会(選手確保等)に向けた県の取組

| 2015年度(H27) (開催11年前) | 2016年度(H28) (開催10年前) | 2017年度(H29) (開催9年前) | 2018年度(H30) (開催8年前) | 2019年度(R1) (開催7年前) | 2020年度(R2) (開催6年前) |
|---|-------------------------|------------------------|--|-----------------------|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・「めざせパラリンピアン」(スポーツ振興課) | | | <ul style="list-style-type: none"> ・「みんながアスリート！」(障がい福祉課) ・強化推進員を障がい者スポーツ協会配置 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・選手の発掘・育成を目的 ・約7競技を年3回の体験会や記録会を実施 ・多くの団体がボラティアとして参加 ・成果：選手の確保、チーム補強、チーム結成 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・未整備の団体競技への支援(以下の4競技) ・知的「サッカー」「フットベースボール」「ソフトボール」、聴覚「バレーボール」 ・大会後の持続できるチームを目指す ・運営スタッフに地域の人材を活用 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・「チャレンジドスポーツ」 ・ディレクターの配置 |

*ここでの「未整備の団体競技」とは、チームが結成されていない競技や、チームの結成はされているが試合に出場する規定数に選手が達していない競技のことを指す。

- その他の県の取組
 - ・九州大会、全国大会への遠征費助成
 - ・障がい者スポーツクラブ運営費助成
 - ・全国障害者スポーツ大会への選手派遣など

2 今後の計画

| 2020年度(R2) 【開催6年前】 | 2021年度(R3) 【開催5年前】 | 2022年度(R4) 【開催4年前】 | 2023年度(R5) 【開催3年前】 | 2024年度(R6) 【開催2年前】 | 2025年度(R7) 【開催1年前】 | 2026年度(R8) 【開催年】 |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------|
| 未整備競技の整備 | | | | | | リハール大会 |
| 整備済団体競技の基盤強化 | | | | | | |
| 個人競技・団体競技の競技力向上 | | | | | | |
| | | | | | | 本大会 |

3 質疑・御意見

協議題 2 : 競技役員の養成について

1 現状と取組

(1) 全国障害者スポーツ大会における競技役員の養成数について

① 先催県(7県)における競技役員の養成・想定人数の平均 (単位/人)

| | | | |
|--------------|-------|---------------------|-------|
| 陸上競技 | 3 5 2 | 水泳 | 1 5 6 |
| アーチェリー | 4 5 | 卓球 サウンドテーブルテニス含む | 1 4 7 |
| フライングディスク | 1 1 2 | ボウリング | 6 1 |
| ボッチャ(2県の想定数) | 7 3 | バスケットボール | 8 5 |
| 車いすバスケットボール | 6 7 | ソフトボール | 6 8 |
| グランドソフトボール | 8 3 | バレーボール | 1 5 9 |
| サッカー | 7 7 | フットベースボール | 6 4 |

② 障スポ特有競技の審判員養成目標数と県内の有資格者数 (単位/人)

| 競技種目名 | 主審 | 副審/ 塁審 | 合計 | コート 数 | 最低必 要数※1 | 養成 目標数 ※2 | 県内有資 格者数 |
|-------------|----|-----------|----|----------|-------------|-----------------|-------------|
| サウンドテーブルテニス | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 2 | 1 6 | 4 |
| フライングディスク | 1 | 3 | 4 | 1 5 | 6 0 | 7 8 | 3 5 |
| 車いすバスケットボール | 1 | 2 | 3 | 2 | 6 | 8 | 1 |
| グランドソフトボール | 1 | 6 | 7 | 2 | 1 4 | 1 9 | 1 |
| ボッチャ | 1 | - | 1 | 8 | 8 | 1 1 | 4 |
| フットベースボール | 1 | 6 | 7 | 2 | 1 4 | 1 9 | 0 |

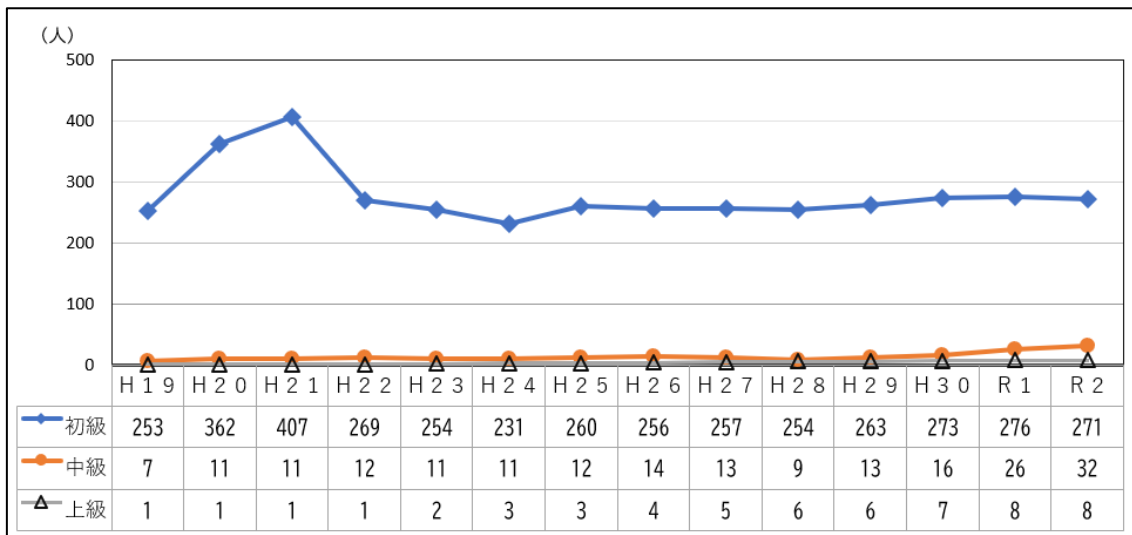
※1…最低必要数とは、交代要員を加味しない必要実数である。

※2…養成目標数は、最低必要数に1.3(補填)を乗じた数である。

(2) これまでの県の取組

- 全国障害者スポーツ大会へ視察団を派遣
(2018年福井大会…陸上2名、バレー2名、サッカー1名。順次派遣予定であった。次年度は、障スポ特有競技から優先的に派遣する予定。)
- 初級障がい者スポーツ指導員養成講習会の実施

【参考 本県の公認障がい者スポーツ指導者登録数の推移】 (令和2年3月現在)



(公益財団法人日本障がい者スポーツ協会ホームページより)

2 今後の計画 (国スポ・障スポ開催準備総合計画)

| 2020年度(R2) 【開催6年前】 | 2021年度(R3) 【開催5年前】 | 2022年度(R4) 【開催4年前】 | 2023年度(R5) 【開催3年前】 | 2024年度(R6) 【開催2年前】 | 2025年度(R7) 【開催1年前】 | 2026年度(R8) 【開催年】 | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------|-----|
| 開催準備 総合計画 | 養成 | | | | | リハ大会 | 本大会 |
| | | | | | | | |

3 質疑・御意見

協議題 3 : ボランティアの養成について

1 現状

(1) 全国障害者スポーツ大会に係るボランティアの種類と先催県養成数

| 区 分 | 先催県養成数 | 内 容 |
|---------------|--------|-----------------------|
| 大会運営ボランティア | 3, 500 | 案内・会場整理・会場美化・式典補助等 |
| 選手団サポートボランティア | 800 | 選手団の歓送迎・介助・誘導・交流等 |
| 情報支援ボランティア | 600 | 手話・要約筆記・パソコン入力等の情報提供等 |

※参考資料 6 ページ参照

(2) 本県の情報支援ボランティア養成に関わる事業と養成者数

- 手話奉仕員等養成指導者研修事業
- 要約筆記者養成指導者研修事業
- 県内の情報支援ボランティアに係る登録者数 (令和 2 年 3 月現在)

| 種別 | 人数 | 内容 |
|----------|-----|--|
| 手話 | 813 | 手話による情報の提供及びコミュニケーション保障 ○人数の内訳 ・手話通訳士 29 名 ・手話通訳者 55 名 ・手話奉仕員 370 名 (県養成分) ・手話奉仕員 359 名 (市町村養成分) |
| 要約筆記 PC | 18 | パソコンに入力したデータによる情報提供 |
| 要約筆記 手書き | 41 | ノートテイクやホワイトボードを使用した情報提供 |

(補足：要約筆記の各数には、PC・手書きの両資格を取得している 7 名をそれぞれ計上。)

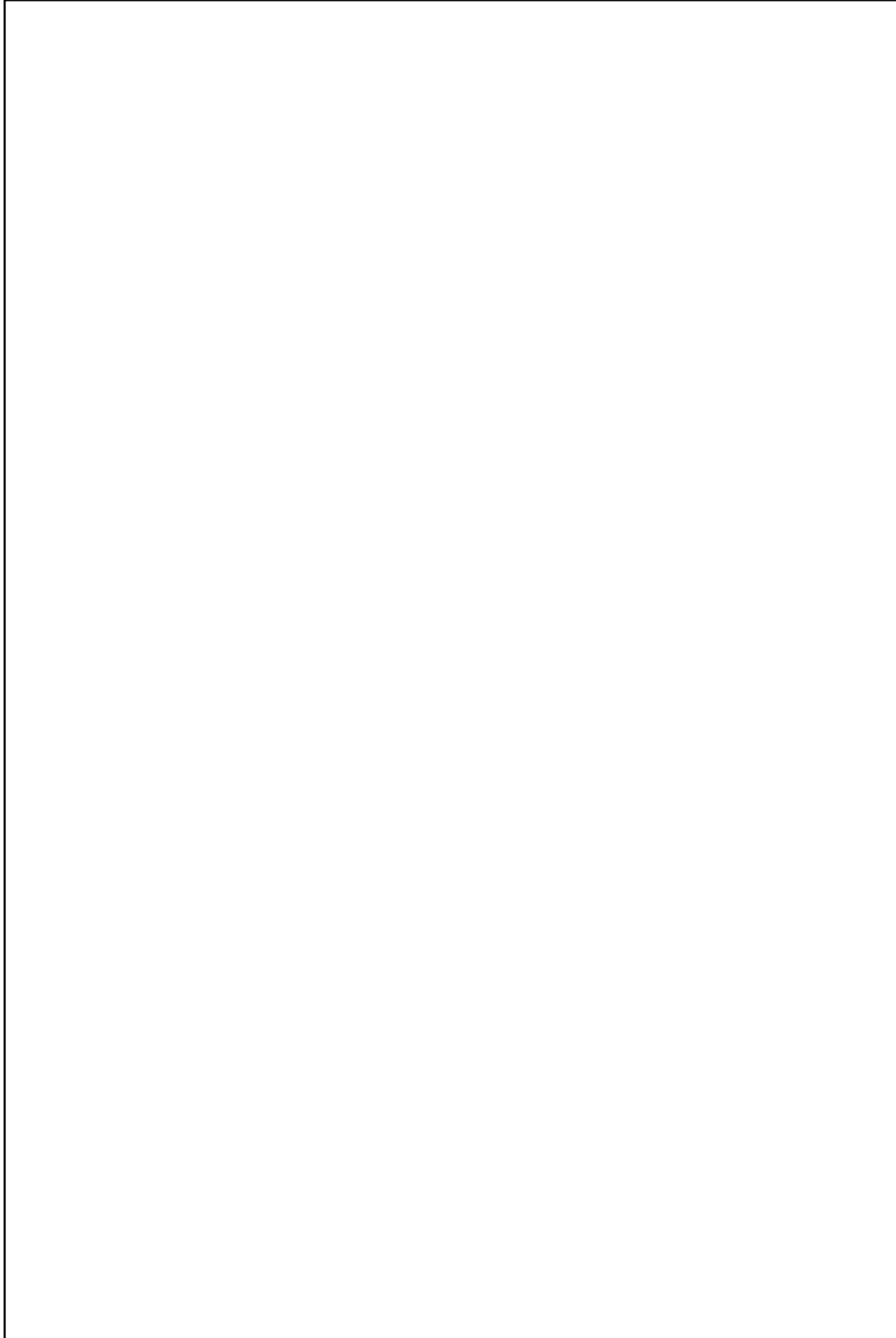
2 今後の計画 (国スポ・障スポ開催準備総合計画)

| 2020 年度(R2) 【開催 6 年前】 | 2021 年度(R3) 【開催 5 年前】 | 2022 年度(R4) 【開催 4 年前】 | 2023 年度(R5) 【開催 3 年前】 | 2024 年度(R6) 【開催 2 年前】 | 2025 年度(R7) 【開催 1 年前】 | 2026 年度(R8) 【開催年】 |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|----------------------|
| 開催準備 総合計画 | 養 成 | | | | | リハ大会 → 本大会 |
| | | | | | | |

3 質疑・御意見

協議題 4 : その他

1 第 26 回全国障害者スポーツ大会に向けて





第 8 1 回国民スポーツ大会・
第 2 6 回全国障害者スポーツ大会
宮 崎 県 準 備 委 員 会



第 2 回全国障害者スポーツ大会専門委員会

参考資料

令和 2 年 7 月 2 9 日（水）

宮崎観光ホテル 西館 8 階 ブリリアントホール

参考資料

- 1 選手・チームの育成・強化について P 1
 - 宮崎県障がい者スポーツ大会競技別参加者数の推移
 - 他県の全国障害者スポーツ大会に向けた選手等強化の取組例
 - 本県の国民スポーツ大会に向けた競技力向上推進計画

- 2 競技役員の養成について P 3
 - 第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会
競技役員等編成基本方針
 - 第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会
競技役員等養成基本方針

- 3 ボランティアの養成について P 6

- 4 「2026年全国障害者スポーツ大会に向けて」のアンケート結果（抜粋）
. P 7

【選手・チームの育成・強化について】

1 宮崎県障がい者スポーツ大会競技別参加者数の推移 (単位/人)

| | 第14回 (H27) | 第15回 (H28) | 第16回 (H29) | 第17回 (H30) | 第18回 (R1) |
|------------|---------------|---------------|---------------|---------------|--------------|
| 陸上競技 | 448 | 432 | 388 | 329 | 284 |
| 水泳 | 74 | 67 | 67 | 61 | 55 |
| アーチェリー | 2 | 6 | 5 | 4 | 3 |
| 卓球 | 62 | 60 | 65 | 80 | 69 |
| フライングディスク | 502 | 494 | 513 | 503 | 488 |
| ボウリング | 201 | 200 | 212 | 223 | 213 |
| バレーボール(精神) | 20 | 16 | 17 | 17 | 15 |
| ミニバレーボール | 85 | 97 | 96 | 72 | 40 |
| グラウンドゴルフ | 218 | 245 | 212 | 198 | 167 |
| ボッチャ | | 13 | 18 | 27 | 30 |
| 選手計 | 1,612 | 1,630 | 1,593 | 1,514 | 1,364 |

2 他県の全国障害者スポーツ大会に向けた選手等強化の取組例

| 柱 | 具体的な対策 |
|---------------|---|
| 推進体制の整備・充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・育成、強化委員会の設置。必要に応じて専門部会を設置 ・スポーツ推進員の設置（各競技団体、特別支援学校、各関係団体） |
| 選手の育成・強化 | <p>【拡大期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者スポーツ体験教室、イベント、初心者向け練習会の開催 ・未整備競技のチーム設立支援 ・指導者養成事業の充実 ・一般スポーツ指導者等との連携強化 <p>【育成期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習会の定期開催 ・指導者派遣 ・記録会や施設間、学校間の交流試合の実施 ・研修や講習会の実施による指導員の資質向上 <p>【強化期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強化練習会、強化試合の定期的な実施 ・県外遠征等、近県チーム等との交流試合 ・中央競技団体等からのコーチ、トレーナー招聘 ・研修や講習会の実施による指導員の資質向上 |
| 指導体制の充実・強化 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導者の確保 ・指導者の養成、資質向上 ・優秀指導者の招聘 ・指導者間ネットワークの強化 |
| 育成・強化のための環境整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動の場の確保 ・競技用具の整備 ・参加、活動しやすい環境づくり ・ボランティアの充実と活用 ・関係団体、機関等との連携の強化 ・障がい者スポーツ情報の積極的な発信 |

3 本県の国民スポーツ大会に向けた競技力向上推進計画

| 柱 | 具体的な対策 |
|-------------|---|
| 推進体制の整備・充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・競技力向上対策本部体制の確立 ・専門委員会の設置、充実 ・会場地市町村との連携強化 ・関係団体等の組織の整備と連携強化 |
| 選手の発掘・育成・強化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットエイジへの支援 ・有望選手の確保 ・ジュニア選手の発掘、育成 ・大学における体育会活動の活性化に向けた支援 ・企業、クラブ等への支援 ・女子選手の発掘・育成・強化 ・ふるさと選手への支援 ・未普及競技の普及、強化 ・子どもの体力の向上 ・強化指定校等の充実 ・成年選手の計画的な確保 ・国体選手、チームの育成強化 |
| 指導体制の充実・強化 | <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な一貫指導体制の確立 ・トップアドバイザーコーチの活用 ・強化指定校等への外部指導者の活用 ・小学校体育専科教員の充実 ・専門性を考慮した適正な配置 ・体育振興指導教員の充実 ・スポーツ振興のための専門的職員配置の検討 ・優秀指導者の確保 ・指導者の計画的な確保 ・教科担当者会議の充実 |
| 環境条件の整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ医、科学サポート充実 ・県内スポーツキャンプチームとの交流マッチング ・体育施設、特殊競技用具や練習環境等の整備の充実 ・広報、顕彰の充実や機運の醸成 |

第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会 競技役員等編成基本方針

第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会（以下「大会」という。）における競技役員等の編成は、大会における競技会の運営が円滑に行われるよう、次の基本方針に基づき実施する。

1 基本方針

- (1) 競技役員等の編成は、公益財団法人日本スポーツ協会の定める「国民体育大会開催基準要項」（以下「要項」という。）及び同細則並びに「国民体育大会各競技会開催にあたる競技役員編成基準」に基づき、第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会宮崎県準備（実行）委員会（以下「宮崎県準備（実行）委員会」という。）が、会場地市町村準備（実行）委員会及び県・中央競技団体と十分協議して行うこととする。
- (2) 競技役員等の編成は、1 人 1 競技を原則として、県及び地域スポーツの普及・振興を図るため、できる限り県内役員とし、競技団体及び会場地市町村の実情に即し、必要最低限の人数により最大の効果をあげることができるよう適正な配置を行うこととする。
- (3) 競技役員等の編成は、競技団体及び会場地市町村関係者のみならず、広く県民の積極的な参加と協力が得られるよう配慮する。

2 競技役員等の種類、定義及び編成方法並びに業務内容

- (1) 競技役員等の種類、定義及び編成方法並びに業務内容は、別表のとおりとする。
- (2) 競技役員等の編成案は、会場地市町村準備（実行）委員会が競技団体等と協議の上作成し、宮崎県準備（実行）委員会において決定する。

3 競技役員等の調整

競技役員等の編成に当たり、重複して競技役員等（監督、コーチ及び選手を含む）となる可能性がある場合は、原則として次により関係者が協議して調整する。

- (1) 監督、コーチ及び選手並びに競技役員等の重複については、監督、コーチ及び選手を優先する。
- (2) 2 競技以上にわたる競技役員等の重複については、その業務内容により、関係者が協議して調整する。
- (3) 同一競技における競技役員等の重複については、その業務内容により認める。
- (4) 開・閉会式及び集団演技関係役員と競技役員等の重複については、その業務内容により認める。

【別表】 競技役員等の種類、定義及び編成方法並びに業務内容

| | 役職名 | 定義 | 編成方法 | 業務内容 |
|----------------|---------|-----------------------------------|---|---|
| 競技会運営 (試合等) | ①競技会役員 | 要項第23項第2号の規定に該当する者 | 名誉会長、会長、副会長、顧問、参与、委員長、副委員長及び委員 | — |
| | ②競技役員 | | | |
| | 審判員 | 競技の審判に携わる者 | ○原則として、県内有資格者 ○必要に応じて中央及び近県競技団体関係者を含める。 | 総括、総務、運営、審判、記録、出発、監察、放送、召集、掲示、進行、報道、表彰、救護、得点掲示、会場、記録送受信、総合成績計算 等 |
| | 運営員 | 競技会の運営に携わる者(審判員を除く。) | ○原則として、県競技団体関係者と会場地市町村関係者等 ○必要に応じて中央及び近県競技団体関係者を含める。 | |
| | ③競技補助員 | 競技役員の仕事補助に携わる者 | 会場地市町村及び周辺市町村に在住する当該競技関係者 | 競技役員の仕事補助 |
| 競技会場運営 | ①競技会係員 | 宿泊・輸送・歓迎・駐車場等の競技会を支援する間接的な業務に携わる者 | 会場地市町村関係者等 | 総括、総務、接待、宿泊、輸送、警備、駐車場、入場券販売、施設管理、会場美化、練習会場、会場整理、プログラム販売、受付案内、弁当、等 |
| | ②競技会補助員 | 競技会係員の仕事補助に携わる者 | 会場地市町村及び周辺市町村に在住する者 | 競技会係員の仕事補助 |

注) 競技役員のうち、競技役員、競技補助員、競技会係員及び競技会補助員の想定される業務内容である。

第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会 競技役員等養成基本方針

第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会（以下「大会」という。）の競技運営に当たる競技役員等の養成は、競技会の円滑な運営と本県及び地域スポーツの一層の普及・振興を図り、大会後も各競技の普及・強化につなげるために、次の基本方針に基づいて計画的に推進する。

- 1 競技役員等については、中央競技団体と連携のうえ、できる限り県内有資格者により必要人数を確保することを目標として養成する。
- 2 競技役員等は、円滑な競技運営を図るため、役員の負担軽減を考慮し、1 人 1 競技を原則として養成する。
- 3 競技役員等は、県、会場地市町村、競技団体等の業務分担を明確にし、十分に連携を図りながら計画的に養成する。
- 4 資格が必要な競技役員については、資格取得及び資質の向上が重要となることから、競技団体ごとに年次別養成計画を策定し養成する。
- 5 資格が必要のない競技役員等については、本県及び地域スポーツの普及・振興を図るため、広く県民の積極的な参加と協力を呼びかけ、各競技会場地及びその周辺において、できる限り確保できるよう養成する。

【ボランティアの養成について】

1 ボランティアの様子【大会運営ボランティア】



【選手団サポートボランティア】



【情報支援ボランティア】



『2026年全国障害者スポーツ大会に向けて』のアンケート結果（抜粋）

○ アンケート調査の概要

本アンケートは、令和元年8月に県障がい者スポーツ協会が、2026年全国障害者スポーツ大会に向け、各競技団体等の課題を把握するために実施したものである。11の競技団体・障がい者スポーツクラブチームから回答を得た。

○ 質問と回答

質問1 貴団体における選手の競技力向上への取組と課題について

| 回答（○は取組、●は課題を表す。） | 【競技名（競技団体名等）】 |
|--|---------------------------------|
| ○年2回の県大会を開催（選手の意欲向上と、県西・南など開催地分散による選手確保） ●参加選手の確保（クラス別大会を開催したい。） | 【ボッチャ競技（県ボッチャ協会）】 |
| ○日本代表候補選手の合宿等に帯同し、クラブの練習へ還元。みやざき中央支援学校との合同練習、一般高校との練習会の実施。 ●週1回の練習では、体力・スキルの維持が精一杯。個人で地域の一般クラブで練習を積ませるなど環境整備が必要。 | 【知的バスケットボール（クラブチーム）】 |
| ○定期的なトレーニングの実施（現在、月2回） ●試合経験が少ない。トレーニング回数の設定が難しい。 | 【知的サッカー競技（クラブ）】 |
| ○交流会の実施。（投げ方など指導をする時間を設けている。） ●県大会の見直し。（現在の1種目から2種目エントリーによる選手意識の向上。） | 【フライングディスク競技（県障がい者フライングディスク協会）】 |
| ○各自所属クラブで練習。月1回程度行われる県内試合へ参加。 | 【アーチェリー競技（県アーチェリー協会障がい者部門）】 |
| ○HP の情報を基に、5名ほど若手選手が加入。週2回の練習に加え、「九州選抜強化合宿及び九州ジュニア強化合宿」に参加。 ●宮崎には車椅子バスケのコーチがおらず統一した指導ができていない。 | 【車椅子バスケットボール競技（クラブチーム）】 |
| ○月1回、実態に応じた練習の実施。 ●現在、練習会場として支援学校グラウンドを予定。球場や多目的グラウンド、ドーム等で活動したいが予算等で難しい。 | 【知的ソフトボール競技】（クラブチーム）R元年度チーム結成 |
| ○一般卓球では週2回、1回3時間の練習を実施。県内で3回、隣県など交流試合で4～5回、九州大会等で年2回に出場。 ●若年者の人口減やスポーツ離れ等、練習になかなか人が集まらない。 ●全国大会等、個人負担が大きく、休みも取りづらい。●外部指導員の活用がない。 | 【卓球競技（宮崎県障害者卓球連盟）】 |
| ○競技力向上については、年間を通じて選手、保護者と一丸となり実施している。 ●男子は高齢化、女子はメンバー不足（精神面や私生活等）。 ●「仕事」と「練習」のバランスが難しく、練習量の確保と、選手の補強が困難。 ●試合相手がおらず、試合慣れ不足。 ●クラブ運営スタッフの充実。 | 【知的バレーボール競技（クラブチーム）】 |
| ○県大会、全国障害者スポーツ大会、九州選抜大会への継続出場。 ●佐土原、小林で練習を行っているが、若手の選手の参加者確保が課題。 | 【水泳競技（クラブ）】 |

質問2 選手の発掘育成に関する取組と課題について

| |
|---|
| <p>【ボッチャ競技（県ボッチャ協会）】</p> <p>○NPO 法人と連携し、ボッチャ道具（年5セット程）を贈呈し、競技の普及を推進。</p> <p>●指導者不足。肢体不自由障がい者施設への働きかけを強化する。</p> |
| <p>【知的バスケットボール（クラブチーム）】</p> <p>○「みんながアスリート！」により、選手層の広がりがある。</p> <p>●1名、ジャパンレベルの選手との出会いがあった。現在、支援学校卒業生が基本である。都城の支援学校にもバスケットボール同好会ができ、卒業後の受け皿となりたい。</p> |
| <p>【知的サッカー競技（県サッカー協会障がい者部門）】</p> <p>○R1年度より、特別支援学校の生徒向けのサッカー教室を県北・県央・県南で開催し、選手の発掘をしたい。毎年開催しているユニファイドで全体の把握をしたい。</p> <p>●まだ開催していないが、活動費が課題と想定される。</p> |
| <p>【知的サッカー競技（クラブチーム）】</p> <p>○ネットでの情報発信。若年層（小学生）へのスクール実施。</p> <p>●トレーニング回数が多くても来られないし、少ないと足りないという状況。</p> |
| <p>【フライングディスク競技（県障がい者フライングディスク協会）】</p> <p>○特別支援学校の部活などを通して見つけていく。各スポーツクラブとの連携。</p> |
| <p>【アーチェリー競技（県アーチェリー協会障がい者部門）】</p> <p>○車いす、杖利用の弓の引ける障がい者アーチェリーをアピール。</p> |
| <p>【車いすバスケットボール競技（クラブチーム）】</p> <p>○毎年開催の24時間マラソン車椅子バスケットボール競技大会への参加者の勧誘。</p> <p>●学校、障がい者施設への周知活動の拡大。</p> <p>●危険な競技と思われがち、競技の正しい理解の啓発。</p> |
| <p>【知的ソフトボール競技】（クラブチーム）</p> <p>○「みんながアスリート！」時に、チーム勧誘のチラシを配布。</p> <p>●「みんながアスリート！」の参加者数を増やす各学校での呼びかけ方の工夫。</p> |
| <p>【卓球競技（宮崎県障害者卓球連盟）】</p> <p>○大会時や知人関係への声かけ、病院、理髪店、スポーツ店等へ募集チラシを掲載。</p> <p>●福祉施設の整備。県外ではプールやエアコン、職員も揃っている。</p> |
| <p>【知的バレーボール競技（クラブチーム）】</p> <p>○「みんながアスリート」事業により2名が新規加入。</p> <p>●各クラブの拠点となる地区の近隣学校に強化指定校のように部活動を指定しては。</p> |
| <p>【水泳競技（クラブ）】</p> <p>○現在の大会（県大、全障スポ大会、九州選抜、日本選手権、スペシャルオリンピック等）に加え、記録会（年代別）等の大会を増すのはどうか。</p> <p>●県下にあるスイミングクラブへの情報を収集・連携した選手の発掘。</p> |

質問3 審判員の養成についての取組と課題について

| |
|--|
| <p>【ボッチャ競技（県ボッチャ協会）】</p> <p>○県大会（年2回）開催前に審判講習会を開催し、県大会で判定できる認定証を交付。</p> <p>●審判講習会実施の案内周知が難しい。肢体不自由施設や学校PTA関係者へ案内の周知。</p> |
| <p>【知的バスケットボール（クラブチーム）】</p> <p>○本団体に有資格者はいない。大会等では県スポ協へ依頼。</p> |
| <p>【知的サッカー競技（県サッカー協会障がい者部門）】</p> <p>○県サッカー協会審判部でも、審判員の増員を強化中。</p> <p>●若い人材の発掘が難しい。</p> |

| |
|--|
| <p>【フライングディスク競技（県障がい者フライングディスク協会）】</p> <p>○2年ごとに審判員養成講習会の実施。○審判取得後、県大会、交流会等で経験蓄積。</p> <p>○全国の統一した審判をするため、講習会やステップアップ研修へ参加。</p> <p>●審判取得後の活動の場が少ない。</p> |
| <p>【アーチェリー競技（県アーチェリー協会障がい者部門）】</p> <p>・アーチェリー競技の審判員は、中央団体の審判員資格（1級、2級、3級）が必要。</p> |
| <p>【車いすバスケットボール競技（クラブチーム）】</p> <p>●バスケットボール協会の審判員等に声かけをしてもらっているが育成が遅れている。</p> |
| <p>【卓球競技（宮崎県障害者卓球連盟）】</p> <p>●サウンドテーブルテニスの資格は、県外での審判講習会が多く、個人負担大。</p> |
| <p>【知的バレーボール競技（クラブチーム）】</p> <p>○日本バレーボール協会公認審判員の資格者が望ましい。</p> <p>●障がい種に応じた、ハンドリング基準等の事前共通理解が必要。</p> |
| <p>【水泳競技（クラブ）】</p> <p>○若手選手への審判員取得も難しい現状。障がい者の場合は、区分判定、泳法審判等がある。一般審判員の資格習得は、障がい者審判より習得しやすい。</p> <p>●現在、若手選手1人に取得を勧めているが難しい。審判員発掘が課題。</p> |

質問4 その他について

| |
|---|
| <p>【ボッチャ競技（県ボッチャ協会）】</p> <p>○ボッチャ競技のさらなる普及。（支援学校での授業等）</p> <p>○肢体不自由施設等への出張体験活動をしたい。</p> <p>○企業ボッチャチームを育成し、企業対抗ボッチャ大会を開催したい。</p> |
| <p>【知的バスケットボール（クラブチーム）】</p> <p>○人口の少ない本県において、他競技も選手発掘は急務であるはず。日章学園高校共生科など支援学校以外と連携を図り、適材にマッチングできると良い。</p> |
| <p>【知的サッカー競技（県サッカー協会障がい者部門）】</p> <p>○テゲバジャーロ宮崎さんとも協力し、早い段階でチーム結成し、強化したい。</p> |
| <p>【知的サッカー競技（クラブ）】</p> <p>○若年層へのアプローチは必要だが、強化とのバランスを考えると、知的競技は普及と強化のバランスが難しい。</p> |
| <p>【フライングディスク競技（県障がい者フライングディスク協会）】</p> <p>○各機関との連携。福祉施設との連携。総合型地域スポーツクラブの協力。</p> <p>○FD協会は、審判員の派遣等、九州ブロックがまとまって活動している。</p> |
| <p>【車いすバスケットボール競技（クラブチーム）】</p> <p>○どの競技も同じだと思うが、試合、合宿などの参加にかかる宿泊費、交通費等、個人負担が大きい。当クラブも、企業等にも協力を求めている。</p> |
| <p>【知的ソフトボール競技】（クラブチーム）</p> <p>○県内各地から練習に参加し、保護者の送迎が多数を占める。学校のグラウンドは、翌月の借用申請を月の1日～10日までに申請する必要がある。年間を通して月1回程度借用申請できるドームや球場で減免ができるとよい。</p> |
| <p>【卓球競技（宮崎県障害者卓球連盟）】</p> <p>●特に若年層向けに、障がい者スポーツの紹介や体験する場があるとよい。</p> |
| <p>【知的バレーボール競技（クラブチーム）】</p> <p>●活動資金の確保。強化するためにはある程度の資金が必要。</p> |
| <p>【水泳競技（クラブ）】</p> <p>提案)県を4地区に分けた記録会を実施してはどうか。各市町村等と連携も必要となる。</p> |

第81回国民スポーツ大会・
第26回全国障害者スポーツ大会
開催基本構想
(素案)



令和 年 月

第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会

宮崎県準備委員会

目 次

| | |
|--|---|
| 第1章 第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会 開催基本構想について | 1 |
| 第2章 国民スポーツ大会と全国障害者スポーツ大会について | |
| 1 国民スポーツ大会とは | 2 |
| 2 全国障害者スポーツ大会とは | 3 |
| 3 国民スポーツ大会と全国障害者スポーツ大会のあゆみ | 4 |
| 4 宮崎県における大会開催の意義 | 4 |
| 第3章 第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会 開催基本方針 | 5 |
| 第4章 「実施目標」の具体的な取組 | |
| 1 「チームみやざき」で創りあげる大会 | 6 |
| 2 スポーツの素晴らしさを体感できる大会 | 6 |
| 3 宮崎県の魅力を全国に発信する大会 | 7 |
| 4 「未来のみやざき」づくりを進める大会 | 7 |
| 5 共に支え合う社会づくりを進める大会 | 8 |
| 第5章 宮崎県での大会開催を契機としたスポーツを活用した県づくりの展開 | 9 |

《第1章》

第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会開催基本構想について

国民スポーツ大会は、昭和21年（1946年）の第1回大会以来、国民体育大会の名称で、国内最大のスポーツの祭典として広く親しまれ、国民の健康増進と体力向上、地方スポーツの推進と地方文化の発展等に寄与してきました。

宮崎県では、昭和54年（1979年）に「伸びる心 伸びる力 伸びる郷土」をスローガンとして、第34回国民体育大会「日本のふるさと宮崎国体」を開催し、本県選手団の活躍や県民総参加で大会を支えた誇りと自信は、明るく豊かな宮崎を築く原動力となり、本県のスポーツ振興はもとより、その後の県勢発展に大きく貢献しました。

また、同年には、「ふれあう心 あふれる力 のびゆく郷土」をスローガンに、第15回全国身体障害者スポーツ大会を開催し、障がい者が力強く競技する姿が多くの県民に大きな感動を与えました。

そして、前回開催から47年ぶりとなる令和8年（2026年）に、第81回国民スポーツ大会と第26回全国障害者スポーツ大会（前身の「全国身体障害者スポーツ大会」を含む。）を宮崎県で開催します。

この開催基本構想は、平成29年（2017年）10月に設立した「第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会宮崎県準備委員会」（令和元年（2019年）7月1日改正）で決定した「第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会開催基本方針」に基づき、大会の開催及び開催準備の指針となる実施目標の実現に向けた具体的な取組を明らかにするものです。

《第2章》

国民スポーツ大会と全国障害者スポーツ大会について

1 国民スポーツ大会とは

国民スポーツ大会（国スポ）は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツの精神を高揚して、国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与することを目的として、毎年開催されている国内最大の国民スポーツの祭典です。

「冬季大会」と「本大会」の競技得点の合計を競う都道府県対抗方式で開催され、天皇杯（男女総合成績1位）・皇后杯（女子総合成績1位）の獲得を目指し、都道府県代表の選手が各競技で熱い戦いを繰り広げます。

大会では、競技得点の対象となる「正式競技」のほか、「特別競技」、「公開競技」、「デモンストレーションスポーツ」を実施することになります。

第81回国民スポーツ大会（本大会）における実施予定競技

| 区 分 | 競 技 名 |
|--------------------|--|
| 正式競技 (37競技) | 陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ボート、ホッケー、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウェイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン、ボクシング |
| 特別競技（1競技） | 高等学校野球 |
| 公開競技（7競技） | 綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、エアロビック |
| デモンストレーション スポーツ | 地方スポーツの推進、国民の健康増進・体力の向上等をはじめ、国民のスポーツ推進を図るため、県内に居住している者を対象として実施する競技 |

2 全国障害者スポーツ大会とは

全国障害者スポーツ大会（障スポ）は、障がい者が競技等を通じてスポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的として、毎年開催されている障がい者スポーツの全国的な祭典です。

全国から都道府県・指定都市の選手団が参加し熱戦が繰り広げられ、全国の障がい者スポーツの交流の場として、人と人との交流、地域との連帯を深める機会となります。

大会では、「正式競技」と「オープン競技」を実施することになります。

第26回全国障害者スポーツ大会における実施予定競技

| 区 分 | | 競 技 名 |
|----------------|---|---|
| 正式競技 (14競技) | 個人競技（7競技） | 陸上競技（身体・知的） 水泳（身体・知的） アーチェリー（身体） 卓球（身体・知的・精神） フライングディスク（身体・知的） ボウリング（知的） ボッチャ（身体） |
| | 団体競技（7競技） | バスケットボール（知的） 車いすバスケットボール（身体） ソフトボール（知的） グラウンドソフトボール（身体） バレーボール（身体・知的・精神） サッカー（知的） フットベースボール（知的） |
| オープン競技 | 広く障がい者の間にスポーツを普及する観点から有効と認められるものについては、あらかじめ主催者間で協議し実施することができる | |

3 国民スポーツ大会と全国障害者スポーツ大会のあゆみ

国民スポーツ大会は、戦後の混乱期の中で国民に希望と勇気を与えるため、国民体育大会の名称で、昭和21年（1946年）に、京都府を中心とした京阪神地域で第1回大会が開催されて以来、毎年、各都道府県の持ち回りで開催されています。

昭和23年（1948年）の第3回福岡県大会から都道府県対抗方式が確立し、天皇杯と皇后杯が創設されました。昭和63年（1988年）の第43回京都府大会から2巡目に入り、全国を東地区（北海道・東北・関東）、中地区（北信越・東海・近畿）、西地区（中国・四国・九州）の3つに分けて輪番制で開催されています。

当初は、冬季、夏季、秋季の3会期で実施されていた国民体育大会は、平成18年（2006年）の第61回兵庫県大会から夏季大会と秋季大会が統合され、以降は冬季大会と本大会の2会期として開催されています。

スポーツ基本法の一部を改正する法律（平成30年7月20日公布）により、国民体育大会は、令和5年（2023年）の第78回佐賀県大会から、国民スポーツ大会に改称されます。

全国障害者スポーツ大会は、昭和40年（1965年）から身体障がい者を対象に行われてきた「全国身体障害者スポーツ大会」と平成4年（1992年）から知的障がい者を対象に行われてきた「全国知的障害者スポーツ大会」を統合した大会として、平成13年（2001年）の第56回宮城県大会から国民体育大会終了後に、同じ開催地で開催されています。

4 宮崎県における大会開催の意義

宮崎県で大会を開催することは、次代を担う子どもたちをはじめ県民に元気・勇気・感動を与えるとともに、トップアスリートの育成や競技力の向上はもちろんのこと、生涯スポーツの推進にもつながります。

また、大会を通じて、障がい者に対する理解や交流の機会が生まれ、人々が共に支え合う社会の実現につながります。

さらには、大会には、県内外から多くの方々が訪れることから、開・閉会式や県内各地で開催される各競技会、関連行事・イベント等でのおもてなしを通じて、人々の交流の輪が広がるとともに、宮崎県の多彩な魅力の発信や新たな活力の創出につながることを期待されます。

《第3章》

第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会開催基本方針

1 基本方針

宮崎県は、温暖な気候や恵まれた自然、快適なスポーツ環境を生かしたスポーツチームのキャンプや合宿を通して、多くの選手や観光客が訪れるなど、スポーツが地域振興の大きな柱となっています。

第81回国民スポーツ大会及び第26回全国障害者スポーツ大会は、「スポーツの持つ力と可能性」により、広く県民に元気・勇気・感動を与え、県民総参加型による“おもてなしの心”あふれる大会を目指します。

この大会の開催を契機として、競技力の向上や地域スポーツの普及・振興を図り、県民の健康増進や生きがいがづくりに取り組むとともに、障がい者に対する理解を深め、障がい者の社会参加を進めます。

また、本県の多彩な魅力を全国に向けて発信するとともに「スポーツランドみやざき」の全県展開など、スポーツを生かした「未来のみやざき」づくりを推進します。

2 実施目標

(1) 「チームみやざき」で創りあげる大会

スポーツを「する」、「みる」、「支える」など、県民がそれぞれの立場で大会に関わり、競技会はもちろん、県民運動や文化プログラム等により、大会の開催機運を盛り上げる県民総参加型の大会を目指します。

(2) スポーツの素晴らしさを体感できる大会

指導者の養成やアスリートの育成など、計画的かつ継続的な競技力の向上を図るとともに、県民一人ひとりがスポーツを通じた健康増進や生きがいがづくりに取り組み、スポーツの喜びや楽しさを享受できる大会を目指します。

(3) 宮崎県の魅力を全国に発信する大会

神話や伝統文化、豊かな自然や食に加え、充実したスポーツ環境など、本県の多彩な魅力を全国に向けて発信します。

また、来県する皆様を“おもてなしの心”で温かく迎え、県民とのふれあいや感動の共有による心の絆を深める大会とします。

(4) 「未来のみやざき」づくりを進める大会

大会の開催を契機として、スポーツの拠点づくりや地域活性化、スポーツ文化の醸成、さらには「スポーツランドみやざき」の全県展開などに取り組み、スポーツを生かした「未来のみやざき」づくりを推進します。

(5) 共に支え合う社会づくりを進める大会

スポーツを通じた交流の拡大や障がい者が主体的にスポーツに取り組む環境の整備を図ることで、障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加を推進するとともに、誰もが互いに尊重し、支え合って生きる社会づくりに貢献する大会とします。

《第4章》

「実施目標」の具体的な取組

1 「チームみやざき」で創りあげる大会

(1) 県民運動の推進

- 県民に対し様々な機会を通じて、各種の広報媒体を活用した広報活動等を行うことにより開催機運の醸成を進め、すべての県民が様々な形で自発的、積極的に大会に参加・協力する“おもてなしの心”あふれる県民運動を展開します。
- 県、市町村、関係機関・団体と連携し、大会の開催準備を進めていきます。

(2) ボランティア活動等の推進

- 総合開・閉会式や各競技会、総合案内所等で活躍するボランティアを養成し、ボランティア活動への参加を推進します。
- 競技会を円滑に運営するため、会場地市町村や各競技団体等と連携し、競技役員等の計画的な養成を図ります。

(3) 県内各地での競技会の開催

- 全県的な開催機運の醸成を図るため、また、多くの県民が多様なスポーツに親しむ機会となるよう、可能な限り県内各地で競技会を開催します。

2 スポーツの素晴らしさを体感できる大会

(1) 競技力の向上

- 関係機関・団体等、官民一体で構成する県競技力向上対策本部による競技力向上の推進体制の整備・充実を図ります。
- ジュニア期からの選手の発掘、未普及競技の育成・強化、有望選手の確保等の取組を推進し、全国大会や国際大会等で活躍できる選手の育成・強化に取り組みます。
- 成年選手、女子選手の活動を支援する体制の整備・充実に努めます。
- スポーツ医・科学的な面から選手をサポートするほか、練習施設・用具の整備などの取組を推進し、練習環境の整備・充実に努めます。

(2) スポーツを支える人材の育成

- 指導者の養成・資質の向上や一貫指導体制の確立など、計画的・効果的な指導体制の充実・強化等に取り組みます。

(3) 健康増進や生きがいづくりの推進

- 大会を契機に、県民一人ひとりのライフステージに応じたスポーツの習慣化に努め、県民の健康増進や生きがいづくりを推進します。
- 豊かで充実した人生100年時代を迎える中で、生涯を通じて、いつでも、どこでも、誰でもスポーツに親しむことができる環境づくりに努めます。

3 宮崎県の魅力を全国に発信する大会

(1) 宮崎県の多彩な魅力の発信

- 神話や伝統文化、豊かな自然や食、充実したスポーツ環境など、本県の多彩な魅力を観光関連団体等と連携しながら、各種の広報媒体を活用した広報活動等を通して全国へ発信します。
- 競技会会場となる市町村をはじめ、周辺市町村へも来県者等が訪れるよう市町村等と連携し、地域の魅力発信に取り組みます。

(2) 来県者等へのおもてなしの推進

- 県内の駅や空港等に、大会や観光等の様々な情報が入手できる総合案内所を設置し、県内外の方々を“おもてなしの心”で迎えます。
- 地域住民と、参加選手をはじめとする来場者との交流が生まれるよう取り組みます。

(3) 大会文化プログラムの展開

- 宮崎県ならではの文化・芸術に係る展示会や音楽会、郷土の祭り、伝統芸能等に係る事業など、競技観戦以外にも楽しめる「大会文化プログラム」を展開します。

4 「未来のみやざき」づくりを進める大会

(1) 「スポーツランドみやざき」の拠点づくりの推進

- 大会の開催を契機に、県内各地に定着した競技や充実したスポーツ施設を生かした、スポーツの拠点づくりを目指します。

(2) スポーツを生かした地域の振興

- 各地で開催された競技会等がそれぞれの地域に定着することで、地域のスポーツ振興を通じた、活力と魅力に満ちた地域づくりを目指します。

5 共に支え合う社会づくりを進める大会

(1) 国民スポーツ大会と全国障害者スポーツ大会の一体的な開催

- 両大会共通の基本方針・計画等を策定するなど、大会の開催準備を一体的に進めていきます。
- 大会における広報や関連イベント等を一体的に行うことにより、障がいに関する理解促進や交流の場を創出します。
- 障がいのあるなしにかかわらず、互いが交流し尊重し合えるような大会運営を目指します。

(2) 障がい者スポーツの振興

- 障がい者を対象とした競技会を開催し、スポーツを通して豊かな生活の実現や競技力の向上を図ります。
- 指導者や審判の養成・確保に取り組むことにより、より多くの障がい者がスポーツに親しむことができる環境づくりを推進します。
- 大会開催を契機として、障がい者に対して、健康増進や交流等、スポーツの魅力を発信します。

(3) バリアフリー等に配慮した大会運営

- バリアフリーに配慮し、誰もが利用しやすい会場づくりに取り組むとともに、宿泊、輸送・交通などにおいても、障がいのある選手や役員が安心して参加することができる大会運営を目指します。
- 手話や点字による案内など情報保障に関する環境を整備し、選手や役員、観客等に分かりやすい情報提供を行います。

《第5章》

宮崎県での大会開催を契機としたスポーツを活用した県づくりの展開

第81回国民スポーツ大会と第26回全国障害者スポーツ大会への取組を通して、県内スポーツの推進や地域振興を図るなど、スポーツを生かした「未来のみやざき」づくりを推進します。

1 県内におけるスポーツの推進

新たに整備するスポーツ施設等を中心に、「スポーツランドみやざき」の拠点づくりを進めるとともに、競技力向上に向けた取組等により、県内の競技スポーツの推進を図ります。

2 競技会や合宿誘致等による地域振興

国内外のトップアスリート等のスポーツキャンプ・合宿の誘致・受入や国際スポーツイベントの開催促進など、「スポーツランドみやざき」の更なる推進に取り組み、スポーツによる誘客や観光など全県的な地域振興につなげます。

3 誰もが楽しめるスポーツ環境の充実と県民の健康づくり

大会への取組を通して、県民のスポーツに親しむ機運の醸成やスポーツ環境の充実等により、県民の健康づくりや生きがいをづくりに取り組みます。